

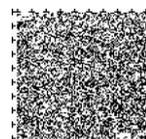
“私たちの” 支えあいプラン

～ 第3期 柏市地域健康福祉活動計画 ～



平成26年3月

第3期 柏市地域健康福祉活動計画策定委員会
社会福祉法人 柏市社会福祉協議会



第3期 柏市地域健康福祉活動計画の策定にあたって



地域の隅々から新たな絆を創る

私たちが日常の生活をおくる地域には、さまざまな福祉に関わるニーズや課題があります。地域福祉活動は、ニーズに応じて変化しながら、子どもから障がい者、高齢者を超えた分野にまで広がりをみせ、新たな担い手までも登場させています。そこで、行政の果たす役割と責任は必然的なものとして、自分たちのまち（地域）の課題を自分たちで解決しようとする、いわゆる「市民自治」の視点からの活動が生まれてきています。市民が主体となった「行政との協働」こそが、先進的な取り組みの共通項になっていることに注目してきました。

市民自らが主体となって「支えあい」「助けあい」「高め合う」活動にこそ、地域の新たな絆を創りだし、さらに強固な結びつけを生み出すことになるかと確信します。

この第3期活動計画は、第2期計画の総括とアンケート調査や計画策定委員による活発で壮大な議論を重ねながら、まちづくりとして策定されたものです。柏市民のみなさん。原点は“新しい絆と多様な支えあいのネットワークづくり”です。

まちのあるべき姿に向かって「共に」取り組んでいきましょう。

第3期 柏市地域健康福祉活動計画策定委員会
委員長 木村清一



“共に”いきいきと暮らせるまち 柏へ

第3期柏市地域健康福祉活動計画から計画理念に“共に”という言葉が新たに加われました。この“共に”には、「だれもが地域で一緒に暮らせる(共生)」という想いと、「住民同士が一緒に支え、助けあう(共助)」という2つの想いが込められています。

本計画では、この“共に(共生と共助)”の視点に立ち、地域一丸となって取り組む活動を“地域実践プロジェクト”として6つ掲げています。

本計画の趣旨を地域の方々にご理解いただき、ひとつでも多くの支えあいのしくみや活動が身近な地域に誕生することを願うばかりです。

柏市社会福祉協議会といたしましても、本計画を推進し、地区社協や各種団体、専門機関の皆さまとともに、計画理念『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち 柏』の実現に向け、より一層努めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました策定委員の皆さま、地区懇談会にご参加いただきました市民の皆さま、そして、アンケート調査にご協力いただいた町会・自治会・区・管理組合の皆さまに心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
会長 中谷茂章

目 次

《地域健康福祉活動計画》

I 地域健康福祉活動計画とは	1
1 この計画を策定する目的	1
2 計画の位置づけと期間	2
II 計画理念と大切な視点	3
1 計画理念（この計画が目指すもの）	3
2 大切な視点	4
III 地域実践プロジェクト	7
地域全体で取り組んでいく“6つの地域実践プロジェクト”	8
プロジェクト1≫ 地域活動に積極的に参加しよう！	10
プロジェクト2≫ 積極的に情報を発信・取得・共有しよう！	12
プロジェクト3≫ みんなが集える居心地の良い居場所をつくろう！	14
プロジェクト4≫ 孤立させないしくみをつくろう！	16
プロジェクト5≫ 日常生活を支援する活動をつくろう！	18
プロジェクト6≫ さまざまな団体と交流や連携をしよう！	20
IV 取り組みの推進と評価	22

《社協アクションプラン》

I 社協アクションプランとは	25
1 アクションプランと市社協の取り組み	25
2 地域福祉の進め方	26
3 市社協活動への期待	27
II 重点的な取り組み（リーディング事業）	28
1 孤立させない体制づくり	28
2 重層的な支えあい活動の推進と支援	29
3 協議体機能を活かした新たな活動の創造	30
III 具体的な取り組み	31
1 地域活動の支援	34
2 福祉教育（福祉意識の醸成）	38
3 ボランティア活動の推進	40
4 在宅福祉サービスの充実	44
5 総合相談	47
6 権利擁護	49
7 災害支援	51

《社協発展・強化計画》

I 社協発展・強化計画とは	55
1 社協発展・強化計画とは	55
II 社協の使命と経営理念	56
1 社協の使命	56
2 経営理念	56
3 組織運営方針	57
III 発展・強化計画	58
1 拠点戦略	58
2 人事戦略	60
3 運営戦略	62
4 財政戦略	64
IV 取り組みの評価	66

《地区別計画》

I 地区社会福祉協議会（ふるさと協議会保健福祉部）の活動	69
1 概要	69
2 役割	69
3 取り組みの柱	70
4 取り組みの視点	70
5 地区社協の活動	71
II 地区別計画の推進	73
1 地区別計画とは	73
2 策定の方法	73
3 計画の活用とあり方	74
4 計画の実践に向けて	74
5 計画の進め方と評価	74

各地区別計画 ※（ ）は、ページ数

柏中央地区(75)／新田原地区(76)／永楽台地区(77)／富里地区(78)

豊四季台西地区(79)／豊四季台地区(80)／旭町地区(81)／新富地区(82)

高田地区(83)／松葉地区(84)／田中地区(85)／西原地区(86)／富勢地区(87)

土地地区(88)／藤心地区(89)／光ヶ丘地区(90)／酒井根地区(91)／南部地区(92)

大津ヶ丘・塚崎地区(93)／風早北部地区(94)／風早南部地区(95)／手賀地区(96)

いつもありがとうメッセージ	97
---------------	----

《資料》

計画の策定について	106
1 計画の主な策定経過について	106
2 第3期柏市地域健康福祉活動計画策定委員名簿	107

I 地域健康福祉活動計画とは

1 この計画を策定する目的

“つながり”と“支えあい”のあるまちづくりへ

柏市民の多様な地域活動と、身近な地域で“共に”つながり、支えあうことは、とても大切なことです。また、市民、地域組織、団体、社協、行政等が、それぞれの役割の中で“共に”推進し、取り組むことも重要なことです。

「第3期柏市地域健康福祉活動計画」は、柏市の福祉計画の方向性を踏まえながら、住民や地域が主体となり、共に住みよい地域をつくる「共助」の視点に立った計画として策定しています。

本計画は、柏市における地域活動の更なる推進と、身近な生活課題の解決に向け、“つながり”と“支えあい”のあるまちづくりを推進するものです。

● NPOやサークル活動などの多様な地域活動の広がり

柏市内には、NPO法人やボランティア団体、各種サークル等による“いきいきとした多様な市民活動”が数多くあります。また、コミュニティカフェのような新たな活動も盛んに取り組まれています。平成23年度の市民調査（以下、市民調査）では、地域活動の未経験者は約60%でした。しかし、そのうち約40%の市民は、「今後参加したい」と回答しています。このことから、柏市の多様な市民活動は、今後さらに活発に取り組まれていくことが期待されます。

● 地域における生活課題の深刻化

一方、身近な地域生活では、隣近所の付き合いや地域の連帯感の薄れ等、「つながりの希薄化」が進んでいます。市民調査では、約40%の市民が隣近所の付き合いは、「あいさつ程度が殆どである」と回答しています。

このような中で、孤独や孤立、虐待、高齢者のごみ捨て問題等の身近な生活課題は年々深刻化し、また、公的制度だけでは対応することが難しくなっています。

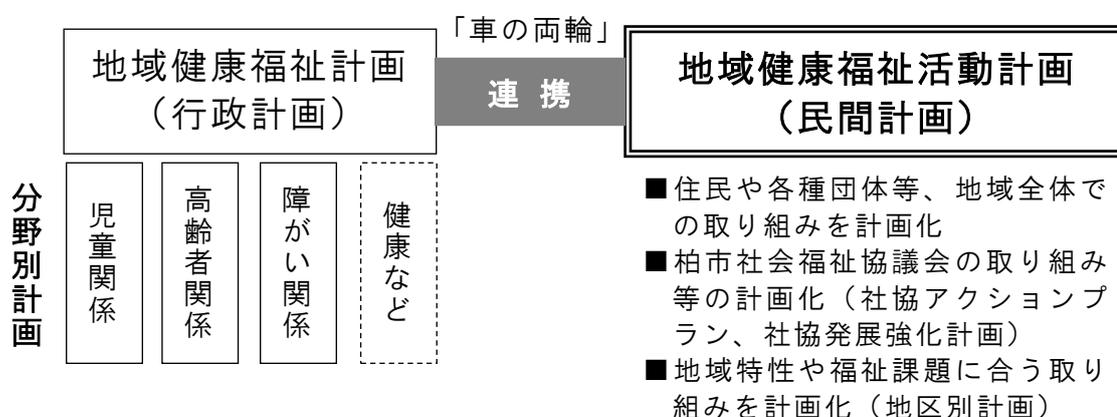
● 東日本大震災で感じたつながりと支えあいの大切さ

東日本大震災の時、多くの市民が「つながりや支えあいの大切さ」を改めて感じました。また、“災害時に支援を必要とする人を支えるしくみ”と“普段からの身近な地域での見守り”の必要性も明らかになり、多くの地域でさまざまな取り組みやしくみづくりが進められました。しかし、震災から時間が経つにつれ、その時の想いは薄れつつあるのではないのでしょうか・・・。

2 計画の位置づけと期間

「地域健康福祉活動計画」は、市の地域健康福祉計画（行政計画）の方向性を踏まえ、連携を取りながら市民や各種団体が主体的に進める「健康福祉活動の計画（民間計画）」です。そのため、地域健康福祉計画（行政計画）とは車の両輪のような関係にあります。そして、地域健康福祉を効果的に進めるためには、「行政」と「市民（地域住民や各種団体等）及び柏市社会福祉協議会」が連携して取り組む必要があります。本計画は、地域健康福祉計画（行政計画）の方向性を踏まえ、一体的な計画として策定しています。

■ 地域健康福祉活動計画と地域健康福祉計画との関係



また、計画の期間は、平成26年度から平成30年度までの5か年とし、社会情勢の変化等を踏まえ、計画期間内であっても必要に応じて見直すものとします。

計 画 \ 年 度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
地域健康福祉活動計画（民間計画）	第2期（H21～H25）					第3期（H26～H30）				
地域健康福祉計画（行政計画）	第2期（H21～H25）					第3期（H26～H30）				

なお、本計画は第3期計画となります。第1期、第2期計画では、下記のような特徴や成果等があり、これらの流れを踏まえ、第3期の計画は策定されています。

	第1期（平成18～20年度）	第2期（平成21～25年度）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> • 活動計画、地区別計画、民間協働計画を策定 • 新たな地域福祉のあり方の創出 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域密着宣言と重点プロジェクト • 福祉計画との位置付けや連携、役割分担の明確化
成果	<ul style="list-style-type: none"> • 協働意識の醸成、地区活動の把握（地区活動マップの作成）など 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域活動センター（活動拠点）の設置 • ボランティアセンターの活性化 • 成年後見センターの設置など
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 担い手不足 • 身近な地域活動のコーディネート機能の必要性 など 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域関係の希薄化 • 人材育成と地域活動センターの拡大 • 社協経営基盤（組織/財政）の強化など

Ⅱ 計画理念と大切な視点

1 計画理念（この計画が目指すもの）

『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、
共に、いきいきと暮らせるまち 柏』

柏市では、“地域がだれにとっても、生まれてから生涯を全うするまで暮らしやすい場”となることへの想いを込めて、『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち 柏』を地域健康福祉像として掲げています。

地域健康福祉活動計画では、市の地域健康福祉計画と一体的に地域健康福祉活動を推進するため、柏市が目指す地域健康福祉像を共有し、計画理念として掲げます。

●●● 想 い ●●●

○ だれもが（ユニバーサルデザイン）

年齢や性別、障がいの有無、国籍などを超えて、すべての人を対象として考えていく。ユニバーサルデザインの考え方である「だれにとっても（すべての人にとって）」という考え方も含んでいます。

○ その人らしく（福祉）

すべての人の尊厳が尊重され、本人の意思で選択し、決定することができ、心豊かに自分らしく生きていける社会、一人ひとりが持てる能力を最大限に生かして、その人らしく生活できる環境を構築していきたいという想い

○ 住み慣れた地域で（地域）

高齢や障がい等によりだれかの支えが必要な状態になっても、慣れ親しんだ地域でいつまでも住み続けていけるようにという想い

○ 共に（支えあい）

すべての人が共に暮らしやすい地域になるようにという想い、住民同士が共に助けあい、支えあう「共助」の関係の中で暮らしていけるようにという想い

○ いきいきと暮らせる（生きがい・健康）

だれもが社会から孤立することなく、人とのかかわりのなかで生きがいを持ち、喜びや楽しみ、悲しみなどを共感し、わかちあえる関係の中で暮らしていけるようにという想い、それぞれの生活環境や健康状態が異なっても、地域の支えあいや専門機関の支援などにより、前を向いて、将来に希望を持って生活していけるようにという想い

2 大切な視点

(1) 自助・共助・公助の考え方

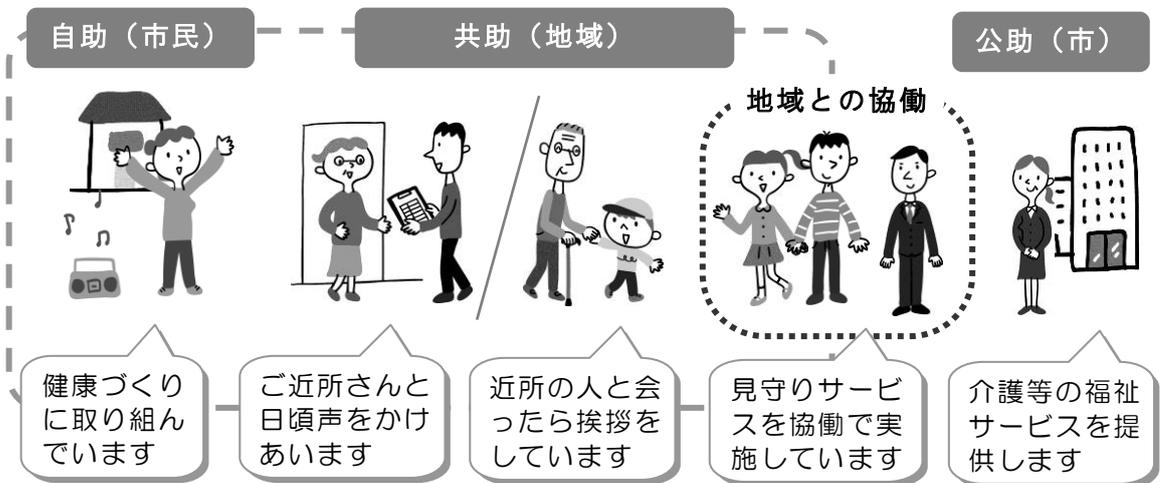
柏市では、健康福祉課題の解決を行う際の市民一人ひとりや地域、市の役割分担について、「自助（自分でできることを自分で行う）」「共助（地域の支えあいで行う）」「公助（行政サービスで行う）」の考え方を基本にしています。

近年、地域の健康福祉課題が多様化する中で、公的制度だけですべてを解決することは難しいのが現状です。特に身近な見守りや日常生活の困りごと（ごみ出し等）は、一人ひとりの「自助」と地域全体の「共助」の取り組みで解決を図ることが今後、とても大切になります。また、それらの取り組みが、公的支援である「公助」と役割分担、連携や協働することで、より効果的な支援活動へと広がりを見せます。

本計画は、地域における「自助」「共助」の取り組みを推進するものです。

本計画を推進する柏市社会福祉協議会は、「地域健康福祉活動を推進する“地域福祉の推進役”として自助、共助の活動を支援する役割を担います。

【参考】自助・共助・公助の関係と、地域との関係における協働の捉え方イメージ

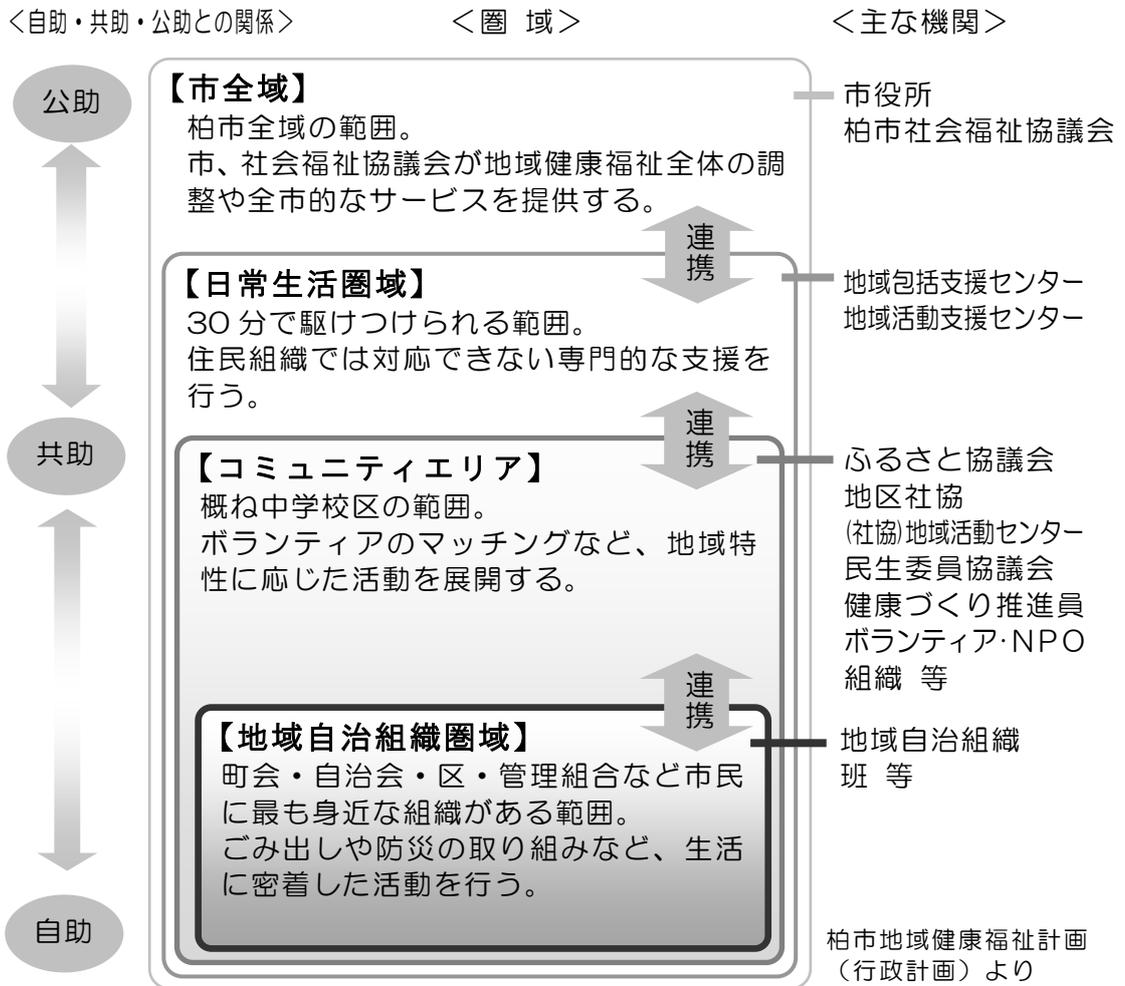


柏市地域健康福祉計画（行政計画）より

(2) 重層的な圏域設定について

柏市では、効率的・効果的に地域健康福祉活動が展開できるように、最も身近な地域交流や活動を行う「地域自治組織圏域」から、市全体としての課題解決を行う「市全域」まで、市域を4つの圏域に区分しています。

【参考】各圏域と取り組みのイメージ



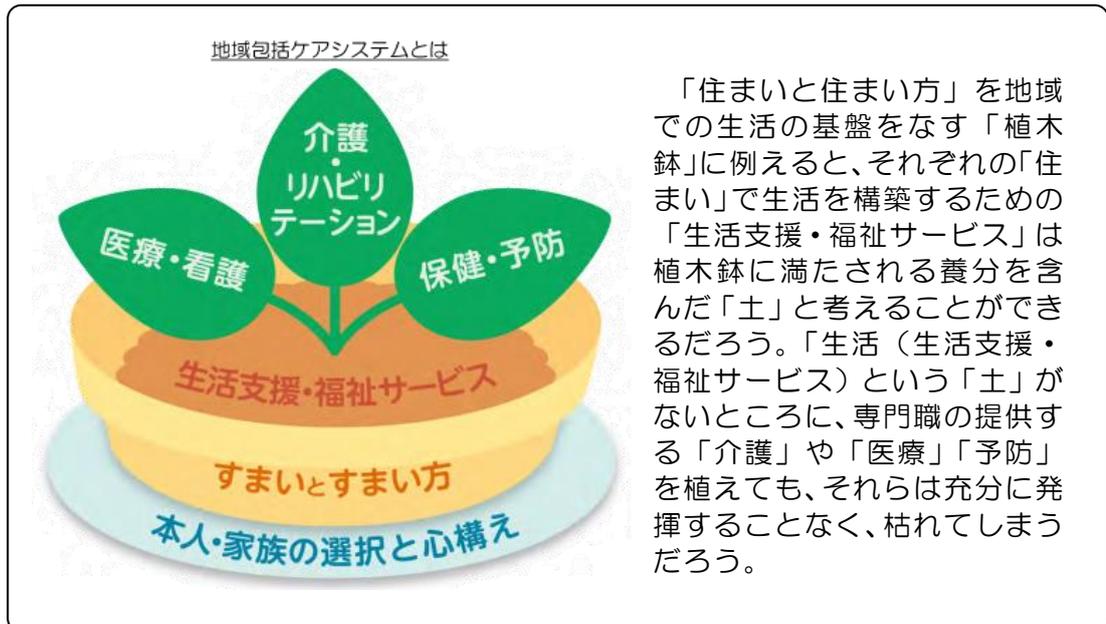
同じ柏市でも、高齢者が多い地域や子育て世帯が多い地域、昔からのつながりの強い地域やつながりの少ない地域等、地域によってさまざまな地域性があります。また、日常生活上の困りごと（ごみ捨て等）への支援は、身近な地域の取り組みとして今後、ますますその役割が求められていきます。

本計画は、身近な地域の支えあい活動が「地域自治組織圏域」「コミュニティエリア」「日常生活圏域」で広く取り組まれるように推進するものです。

本計画を推進する柏市社会福祉協議会は、町会・自治会やふるさと協議会（地区社協含む）、ボランティア団体やNPO法人、各種関係機関等と連携を図りながら、身近な支えあいのしくみづくりを支援する役割を担います。

(3) 地域包括ケアシステムについて

地域包括ケアシステムは、「だれもが住み慣れた地域で、健康で安心して生活できるように、医療や介護、福祉サービス等のさまざまな生活支援サービスを、日常生活の場で、一体的に受けることができる地域のしくみ」のことを言います。「医療・介護・予防・生活支援・住まい」等のサービスが、バラバラではなく、お互いに連携しながら提供されることが大切なしくみと言えます。



〈地域包括ケア研究会〉「地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点」より

上図のように、地域包括ケアシステムの中で、「生活支援・福祉サービス」は、とても重要な取り組みであり、この取り組みの中には、身近な地域の見守りやふれあい活動、おせっ会・サロン活動、日常生活支援サービス等も含まれています。

また、この地域包括ケアシステムは、高齢者だけのものではなく、子ども・子育て、障がい者を含めた地域住民すべてを支えるしくみでもあります。

今後、地域包括ケアシステムをよりよいしくみにするためには、行政や専門機関だけでなく、町会や自治会、ボランティア団体、NPO法人、地域組織、企業等が、一体となり地域全体で取り組むことが求められています。

本計画は、「地域包括ケアシステム」の構築に必要な住民同士の身近な地域における生活支援や予防活動等の充実と連携を推進するものです。

本計画を推進する柏市社会福祉協議会は、地域の生活支援や予防活動の推進と支援を行うとともに、関係機関との連携やつなぎ役としての役割を担います。

Ⅲ 地域実践プロジェクト

計画理念『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち柏』の達成に向けて、市民一人ひとりや関係団体・機関等が、身近な地域の中で、共に協力しあいながら進めていくべき大切な取り組みを“地域実践プロジェクト”として6項目掲げています。これらの取り組みにより地域の中に新しいしくみや活動が数多く誕生し、支援が必要な子育て世代や障がい者、高齢者等が「安心して暮らすことができる地域づくり」を進めます。

だれもが、その人らしく、
住み慣れた地域で、
共に、いきいきと暮らせるまち
柏

地域実践プロジェクト 1

地域活動に積極的に参加しよう！

地域実践プロジェクト 2

積極的に情報を発信・取得・共有しよう！

地域実践プロジェクト 3

みんなが集える居心地の良い居場所をつくろう！

地域実践プロジェクト 4

孤立させないしくみをつくろう！

地域実践プロジェクト 5

日常生活を支援する活動をつくろう！

地域実践プロジェクト 6

さまざまな団体と交流や連携をしよう！

地域全体で取り組んでいく“6つの地域実践プロジェクト”

地域実践プロジェクト 1

地域活動に積極的に参加しよう！



市民一人ひとりが町会・自治会やボランティア、趣味活動等に積極的に参加し、地域の助けあい・支えあい活動の“担い手”になること。また、市民が地域活動に参加しやすい機会やしくみをつくり、みんなで支えあう地域を目指します。

地域実践プロジェクト 2

積極的に情報を発信・取得・共有しよう！



市民一人ひとりが情報の発信・取得・共有方法を学び、実践し続けることでさまざまな方法による情報発信や取得、共有が可能になります。みんなが積極的に情報を共有し、必要な人に必要な情報が伝わる地域を目指します。

地域実践プロジェクト 3

みんなが集える居心地の良い居場所をつくろう！



高齢者や子育てサロン等の参加対象を決めた居場所の他に、あらゆる世代の市民がだれでも、いつでも気軽に立ち寄れる地域の居場所をつくること。そして、居心地の良い居場所から新たなつながりや活動が生まれる地域を目指します。

地域実践プロジェクト 4

孤立させないしくみをつくろう！



育児中の母親、一人暮らし高齢者や障がい者等、孤立しがちな市民が、地域とのつながりを感じ、安心して生活できるしくみや取り組みを行うこと。そして、だれもが孤立することなく、つながりのある地域を目指します。

地域実践プロジェクト 5



日常生活を支援する活動をつくろう！

制度では支援しきれない日常的な生活課題を抱えた高齢者、障がい者等を地域全体で支える取り組みを身近な地域で行うこと。そして、身近な地域の支えあいによりだれもが安心して暮らすことのできる地域を目指します。

地域実践プロジェクト 6



さまざまな団体と交流や連携をしよう！

さまざまな団体が交流し、特徴を活かしながら連携すること。そして、複雑で多様化した生活課題等の解決（地域包括ケアシステムの構築）や新たな活動の誕生、更なる活動の幅を広げることのできる地域を目指します。

【参考】柏市地域健康福祉計画（行政計画）の基本方針

柏市では、「地域健康福祉像の実現」に向けて、この5年間で目指す地域の姿を4つの基本方針として掲げています。本計画で掲げた上記“6つの地域実践プロジェクト”は、この基本方針の内容も踏まえて作成されており、市が掲げる基本方針の実現にも繋がる大切な取り組みとなります。

だれもが、
共に、いきいきと暮らせるまち
柏

【基本方針1】みんなで支え合う地域づくり

施策の柱 活動組織への支援の充実、人材の育成・発掘・コーディネート
の充実、活動拠点の活用と設置支援の充実

【基本方針2】情報が共有され相談しやすい地域づくり

施策の柱 情報発信の充実、相談体制の充実

【基本方針3】健やかに暮らせるづくり

施策の柱 地域を核とした健康づくりの促進、地域福祉医療体制の充実、生きがい活動への参加促進

【基本方針4】安全安心に暮らせる地域づくり

施策の柱 防災・防犯対策等の充実、移動・居住支援の充実、権利擁護体制の充実



地域活動に積極的に参加しよう！

市民一人ひとりが町会・自治会やボランティア、趣味活動等に積極的に参加し、地域の助けあい・支えあい活動の“担い手”になること。また、市民が地域活動に参加しやすい機会やしくみをつくり、みんなで支えあう地域を目指します。

●●● このプロジェクトの目標 ●●●

- ◎ 楽しさや生きがいを感じながら地域活動に参加する市民がたくさん誕生する
- ◎ 多くの市民の参加やアイデアから多彩な地域活動や支えあいが生まれる

■ なぜ、『地域活動への参加』を勧めるのか

(1) 地域活動は、やりがいや生きがいを感じる素敵な活動です

市民調査で、『生きがいをもって楽しく生活している』と感じる人の割合は、自治活動やボランティア活動に参加している市民の方が、参加していない市民よりも高くなっています。また、それらの活動は、個人のやりがいや生きがいだけでなく、地域の助けあいや支えあいに繋がるものも多くあります。

地域活動は、楽しみながらも住みよいまちづくりにつながる活動といえます。

(2) 地域では、多くの活動者が求められています

町会や自治会、ボランティア団体等、さまざまな生活福祉課題が増加する中で、新たな担い手は、常に求められています。また、多彩な市民活動の場においても、さまざまな知識と経験を持った人材の参加は、喜ばれています。

活動者は、常に求められています。そして活躍の場は、多種多様にあります。

(3) 地域活動への参加条件は、「気軽さ、身近さ、時間の自由度」

市民調査で、約45%の市民が『今は活動していないが、「気軽さ、身近さ、活動時間の自由度」等の条件があれば、今後ボランティア活動に参加したい』と回答しています。地域やボランティア団体等の受け入れ側は、参加しやすい環境やしくみをつくることで、新たな活動者の獲得が期待できます。

●●● 柏市社会福祉協議会への期待 ●●●

- ボランティアや地域活動のきっかけとなる機会（場）や情報を提供してほしい
- ボランティアや地域活動の中心となるリーダーを育成してほしい
- 若者の視点での参加しやすい活動や方法等も積極的に考えてほしい



“活動実践者”からの活動のススメ

『男性の皆様、地域活動は現役世代から!!』

松葉町地域ふるさと協議会 相談役 藤田 武志 さん



平成7年4月(会社員、54歳)我孫子市から現在の松葉町二丁目に移り住みましたが、すべてが未知の中、約2年不便な生活を強いられました。その間地域の人(わんちゃん仲間)とスムーズなふれあいをしていた妻から、『おとうさん 地域に入っていくのは定年後では無理!現役の今よ。先ず町会のお世話から入ったら』とはっぱをかけられ、これがきっかけで平成9年4月に町会役員(監事)、1年後には広く松葉町の人とのつながりを求めて松葉町地域ふるさと協議会の役員(体育委員長)として地域活動を始め、現在も両方に籍を置き、地域活動を続けています。活動を通じて、ずいぶん多くの人と知り合いになれたことがなによりも大きな財産となりました。また、最も喜びを感じた事は、体育委員長時代に会長から「松葉町で運動会を実施せよ」との強い指示があり、多少の反対はありましたが、2年間運動会を行ったことが今でも大きなやりがいとして記憶に残っています。皆さん、“地域活動は是非若い時から”!!



“柏市社会福祉協議会”からの活動のススメ

『いろいろなボランティア活動や地域活動』

ボランティアや地域活動は、無理なく楽しみながら行うことが大切です。自分のライフスタイルや興味にあう活動の仕方を探して、ぜひ活動に参加してみてください!

仲間と一緒に活動したい

『自分の興味や目的とあう活動団体に所属して活動する』ことをお勧めします。『仲間と新たな活動団体をつくり活動する』方法もあります。

個人で気軽に活動したい

『イベント等のお手伝い』や『施設での個人ボランティア』等、活動したい時に活動を探して、単発的に行う方法もあります。

特技を活かして活動したい

楽器演奏や歌等の特技を活かし『ふれあいサロンや福祉施設、地域行事等の場で参加者や利用者を楽しんでもらう』等の活動があります。



身近なところで活動したい

『町会や自治会、ふるさと協議会(地区社協)等の地域組織での活動』への参加をお勧めします。地元での活動は大切なことです。

困っている人を支えたい

子育て家庭や障がい者、高齢者等を支援する活動として『住民参加型の在宅福祉サービス』があります。日常生活の支援(家事支援等)や子どもの一時預かり等の支援を行います。

活動する前に勉強したい

『講座や研修、講演会に参加することも活動への大切な第一歩』です。興味のある講座やイベント等を見つけて積極的に参加してみてください。

柏市社会福祉協議会(ボランティアセンター)では、ボランティア活動の相談やきっかけとなる講座の開催等、新たな活動のお手伝いをしています。お気軽にご相談、ご参加ください。



積極的に情報を発信・取得・共有しよう！



市民一人ひとりが情報の発信・取得・共有方法を学び、実践し続けることでさまざまな方法による情報発信や取得、共有が可能になります。みんなが積極的に情報を共有し、必要な人に必要な情報が伝わる地域を目指します。

●●● このプロジェクトの目標 ●●●

- ◎ 市民一人ひとりが、自分に必要な情報をうまく取得し、発信できる
- ◎ 情報がみんなでも共有され、必要な人に必要な情報が届きやすくなる

■ なぜ、『情報の発信・取得・共有』を勧めるのか

(1) 市民の多くが「情報が届いていない」と感じています

市民調査で、『健康や福祉に関する情報』や「ボランティア活動等の情報」が入手しやすくない』と感じる割合は高くなっています。また、今後の福祉施策として『健康や福祉についての情報提供の充実』を求める回答も高い割合を占めており、まだまだ情報に関する取り組みの充実が必要といえます。

(2) 情報を得る手段の多様化と年代別による違い

現在、広報紙やパンフレット、インターネット等、さまざまな方法で情報が発信されていますが、年代等により情報を得る方法には、違いがあります。

情報を発信する側は、常に対象となる市民等に情報が届く工夫を続ける必要があります。しかし、市民一人ひとりも、情報を得るためにアンテナを高く張り、積極的に情報を得る努力を続けることも大切な取り組みといえます。

(3) よい情報を身近な人たちと共有することで情報は広がります

だれがどのような情報を必要としているかを一番よく知っているのは、周りにいる家族や友人、近所の人、同じ境遇の人たちです。また、自分が必要とする情報を周囲に発信することで、周りから情報を受けやすくなります。

このように「必要な人に情報を伝える」「必要な情報を発信する」等、“情報の共有”は、有益な情報を確実に得る有効な手段といえます。

●●● 柏市社会福祉協議会への期待 ●●●

- 福祉に関する啓発活動や情報提供に力を入れてほしい
- 色々な方法で情報を提供してほしい



“活動実践者”からの情報発信・取得・共有のススメ

『伝える情報発信のコツ！』

特定非営利活動法人 エアロームかしわ 理事・事務局長 大島 安輝子 さん



社会人になってからというもの、企業ライブラリー業務、取材・執筆、ホームページ運営など、ずっと「情報」の仕事に携わってきました。今ではインターネットがメインの仕事場ですが、その変化の速さには驚きます。最近、スマートフォンなど携帯端末によるネット利用が急伸。多くのサイトがスマホで見やすいデザインへと移行してきましたが、情報発信はそこで終わりではなく、むしろ始まりです。サイト自体は単なる器。日々

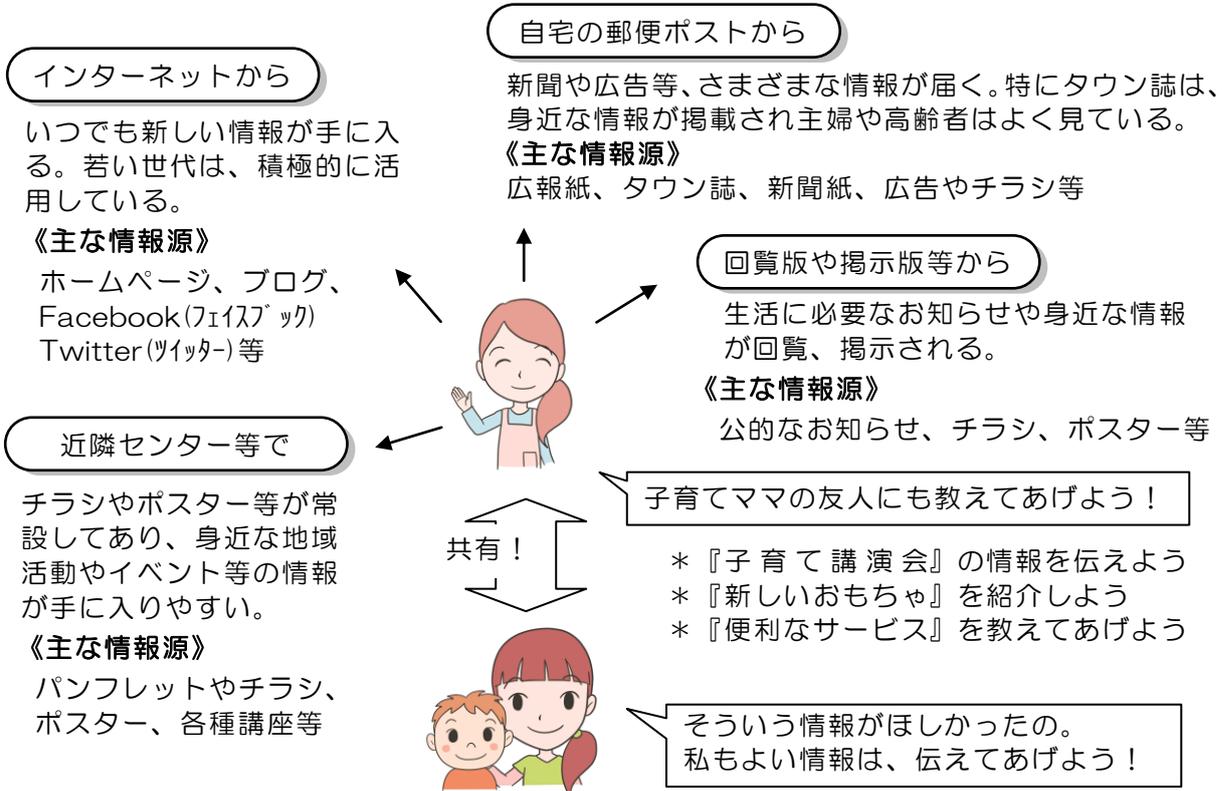
新鮮な情報がそこになれば、文章も旧来のスタイルのままでは、だれも訪れなくなります。よい情報を間違いなく書けばよい、とは発信者の独りよがり。読みたいと思ってもらい、そして友達にも教えたいと感じてもらえたとすれば、それは発信者と利用者との感性が一致したということ。情報を求めている人に一歩でも近づくために、発信者は常に姿勢は低く、アンテナは高く保ち続けたいものです。



柏市社会福祉協議会からの“情報発信・取得・共有”のススメ

『情報発信や取得に使えるツール(道具)と伝わるしくみ』

情報を伝える側は、伝えたい対象や内容にあわせた情報発信を。また、情報を得る側は、色々な方法で積極的に情報を取得しましょう。そして、良い情報は、積極的に“口コミ”でみんなと共有しませんか！



みんなが集える居心地の良い居場所をつくろう！



高齢者や子育てサロン等の参加対象を決めた居場所の他に、あらゆる世代の市民がだれでも、いつでも気軽に立ち寄れる地域の居場所をつくること。そして、地域の居心地のよい居場所から新たなつながりや活動が生まれる地域を目指します。

●●● このプロジェクトの目標 ●●●

- ◎ 身近なところにいつでも気軽に立ち寄れる居心地の良い場所ができる
- ◎ 地域にある居場所から新たなつながりや活動が生まれる

■ なぜ、『居心地のよい居場所』をつくるのか

(1) 高齢者や子育てサロンが着実に増えています

身近な地域での助けあいや支えあいの活動は、積極的に取り組まれています。

特に高齢者や子育てサロンは、年々増加しており、多くの市民がサロンへの参加を楽しみにしています。現在、柏市社会福祉協議会が把握する支えあい活動数は、平成24年度で『221活動』となっています。

(2) いつでもだれでも立ち寄れる場所が求められています

高齢者や子育てサロンのように、『対象者が限られている月数回の活動』が定着しつつある中、次の取り組みとして『いつでもだれもが、気軽に集える地域の居場所や世代間交流の場がほしい』という声が多く聞かれます。このような声に応える活動（場）として“コミュニティカフェ”が最近、柏市でも立ち上がってきており、新たな居場所づくりの取り組みとして期待されています。

(3) みんなの居場所は、新たな活動や支えあいが広がる拠点となります

子どもから高齢者まで、あらゆる年代や経験を持つ市民が、だれでも気軽に集える場所には、新たな出会いや世代間交流があります。また、豊かなアイデアや新たな活動の誕生、支えあいの輪の広がりが期待できます。

だれもが集える場所には共に助けあい・支えあ関係づくりに必要な要素がたくさん詰まっているといえます。

●●● 柏市社会福祉協議会への期待 ●●●

- だれもが気軽に立ち寄れる居場所を地域にふやしてほしい
- 高齢者や子育てサロンだけでなく、世代間交流ができる取り組みを進めてほしい
- 新たな立上げや既に取り組んでいる活動者（団体）への支援をしてほしい



“活動実践者”からの活動のススメ

『「地縁のたまご」と「茶論」(コミュニティカフェ)』

多世代交流型コミュニティ実行委員会 代表 常野 正紀 さん



「地縁のたまご」は高柳・風早南部地域で生まれた地域住民によるコミュニティです。地域の「宝」の子供を「子育て世代」と「高齢者」が手をつなぎ育てる地域活動です。

地域の絆を醸成し地域全体を「大家族」にして、ここで育った子供が大人になった時に、この地域で子育てをしたいと思える素敵なおところにしたいと考えているのです。

活動の中心はコミュニティカフェ「茶論」で地域の居間として誰でも気楽に集えるところです。此処に来れば自分のやりたいことが見えてきます。自分が持っている知識と経験を仲間と話し合い、地域の子供達に教え、育てるのです。毎月計画を立てて PR すると、子供たちが参加して生き甲斐に繋がっています。子供が育って高齢者が元気になる「茶論」を目指しています。皆様の地域でもぜひ活動してください。きっと素敵な明日が見えてきます。

詳細はホームページ『地縁のたまご』をご覧ください。

コミュニティカフェ「茶論(さろん)」

営業日 毎週火、水、木、土曜日 10時～17時

場所 柏市高柳 1652-1 高柳児童ルーム隣接

活動	まちセミ … 地域住民企画講座の開催(年120本)
	朝市 … 地元農家出店/地産地消(土曜日開催)
	その他 … 小中学校と地域のコラボレーション等



柏市社会福祉協議会からの“地域の居場所づくり”のススメ

『“ふれあいサロン”と“コミュニティカフェ”』

地域の居場所として取り組みが進められている「ふれあいサロン」と「コミュニティカフェ」。どちらも素敵な活動ですので、市内に活動の輪を広げませんか！

ふれあいサロン

身近な場所で、月1回程度開催される「仲間づくり」の場。高齢者サロンや子育てサロン等、同じ世代を対象としたものが多い。仲間づくりの他、高齢者の孤立や介護予防、子育て世代の育児ノイローゼ予防等の効果があります。

コミュニティカフェ

身近な地域で、いつも開いている「市民のたまり場(カフェ)」。世代を問わずだれもが気軽にいつでも利用できる。世代間の交流や新たな人との出会い等地域のつながりやコミュニティの活性化等の効果があります。

柏市社会福祉協議会では、新たな活動の立ち上げやサロンで使える各種グッズの貸出、情報提供等の支援を行っています。参加や立ち上げをお考えの際は、お気軽にご相談ください。



孤立させないしくみをつくろう！



育児中の母親や一人暮らし高齢者や障がい者等、孤立しがちな市民が、地域とのつながりを感じ、安心して生活できるしくみや取り組みを行うこと。そして、だれもが孤立することなく、つながりのある地域を目指します。

●●● このプロジェクトの目標 ●●●

- ◎ どんな状況の中でも、だれもが地域との繋がりを感じることができる
- ◎ つながりにくい人をそっと見守り、必要な時に支える環境ができる

■ なぜ、『孤立させないしくみ』をつくるのか

(1) だれにでも起こりうる孤立の問題は、今や全国的な課題

近年、無縁社会という言葉が話題となったように、性別や年齢に限らず地域との関わりを“持たない市民”や“持てない市民”が増えています。

また、個人情報保護を重視するあまり、たとえ支援を必要とする市民が地域にいたとしても、それを知るすべや伝えることがしにくい状況にあります。

このような状況から孤立防止は、今や全国的な課題といえます。

(2) だれもが感じたつながることの大切さ

悪質商法の被害や孤独死、自殺、虐待、DV 等、孤立は、時にさまざまな事件や事故に至る一つの要因となります。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の経験から地域のつながりの重要性や要援護者の平常時からの見守りの必要性も明らかになりました。

(3) 一人ひとりの日頃からのつながりとしくみが孤立させない地域をつくる

専門機関等が、日々の見守りを行い、新たな支援者や異変の発見をすることは難しいことです。しかし、そこに住む市民は、日頃のつながりや見守りの中で気づくことができます。そして、発見後、その対応を専門機関につなぐことができます。発見から支援まですべてを行うのではなく、早く異変に気づき、専門機関等につなぐことのできるしくみを地域につくることが大切です。

そのためには、災害時に限らず、日頃から身近な地域でだれもが孤立することなく、つながりあうしくみづくりが、今後ますます必要になるといえます。

●●● 柏市社会福祉協議会への期待 ●●●

- 取り組みを始めようとした時に、相談や支援をしてほしい
- 何かの時の対応の仕方や必要な情報を積極的に提供してほしい



“活動実践者”からの活動のススメ

『 孤立する親子がいなくなりますように・・・ 』

赤ちゃんのほっぺ 代表 西藤 尚子 さん



私の活動の原点、それは私自身が育児をスタートしたときに「孤立」を感じたことでした。それまで仕事をしていて地域とのつながりもほぼ無く、いざ子育てをしようとしたとき「だれに頼ればよいか」「どこにいけばよいか」全くの手探り状態。幼子をバギーに乗せて夕方の散歩で涙したことを今でも昨日のこのように覚えています。そんな自らの経験から、子育て支援の活動を手探りで始めました。何よりも「人と人とをつなぐこと」「仲間づくり」を大切にしたいサークル活動を軸に取り組んでいます。活動をスタートした頃から比べると、柏市も子育て支援に力が入り、随分と子育てしやすい環境になりました。しかしながら、柏は転出入の多い地域・働くママが多い地域には変わりありません。子育ての早い時期に、いや子を授かった時から「身近な地域とつながれる」、「人や情報とつながれる」そんな雰囲気や環境をみんなで作っていきませんか。孤立する親子がいなくなるように・・・。



柏市社会福祉協議会からの“孤立させないしくみ”のススメ

『 身近な地域で孤立させないための取り組み 』

同じ一人暮らしでも、つながりがある人・ない人、求めている人等、さまざまです。それぞれの考えを尊重しつつも、何かの時に助けあえる関係づくりは必要です！

《 孤立させないために 》



【つながりがいない人】

挨拶や声かけ等、積極的に声をかけ、地域とのつながりづくりを行う。



【つながりを求めている人】

何かの時に支援ができるように、状況把握程度の見守りを行う。



【つながりがある人】

サロン等の参加確認や声かけ等により、つながりの維持を行う。

異変発見

連絡等

支援/対応先

- ・警察や救急車
- ・児童相談所
- ・町会/自治会
- ・民生(児)委員
- ・地域包括支援C
- ・専門機関
- ・市社協 など…

※ 異変を発見した時に専門機関等に連絡できる情報提供やしくみづくり

身近な地域での見守りを行う人やしくみ

ご近所、町会/自治会、民生(児)委員、健康づくり推進員、地域組織(地区社協力等)、新聞/郵便配達員、訪問業者/販売員 等 ※ さまざまな関係者で見守るしくみづくり

柏市社会福祉協議会では、身近な地域での新たな見守りのしくみづくりのご相談やお手伝い等を行います。

取り組みをお考えの際は、お気軽にご相談ください。





日常生活を支援する活動をつくろう！

制度では支援しきれない日常的な生活課題を抱えた高齢者や障がい者等を地域全体で支える取り組みを身近な地域で行うこと。そして、身近な地域の支えあいによりだれもが安心して暮らすことのできる地域を目指します。

●●● このプロジェクトの目標 ●●●

- ◎ 公的制度では対応できない日常の困りごとを地域の支えあいで解決できる
- ◎ 支えあいの取り組みや団体が地域の中にたくさん誕生し、つながっている

■ なぜ、『日常生活支援活動』をつくるのか

(1) 家族だけでは、解決できない日常的な課題が増えています

高齢者世帯の増加等により、各世帯（家族間）だけでは、日常生活を支えきれないという状況が起っています。買い物やごみ捨て等、公的な制度では対応できない課題を地域でどう支えあうかが重要な課題となっています。

(2) 90%の町会等が、生活支援の必要性を感じています

平成23年度の町会等対象調査の「日常生活で支援を必要とする市民についての項目」で、支援対象者の把握は、『ある程度把握している』との回答が約50%あり、支援の必要性については、『支援の必要性を感じている』との回答が約90%ありました。また、既に支えあい活動に取り組んでいる町会等も多くあり、NPO法人やボランティア団体等の有償・無償の活動も含め、身近な地域における日常生活支援の取り組みが、今後必要になるといえます。

(3) 行政任せではなく、市民と行政が共に解決に向かう意識が高い

市民調査では、『地域での支えあい・助けあい活動に関心がある』との回答が、約70%、『日常生活の課題は、行政と住民が協力して解決方法を考える方が良い』という回答は、約60%ありました。柏市民には、地域課題を行政任せにせず、市民自らも取り組もうとする高い協働の意識があるといえます。

●●● 柏市社会福祉協議会への期待 ●●●

- 取り組みを始めようとした時に、相談や支援をしてほしい
- 活動団体では、取り組めない難しいケース等の支援を行ってほしい
- 活動団体間の情報共有や連携の場をつくってほしい

“活動実践者”からの活動のススメ



Message

『 ささえあい、たすけあいの仲間になってください！ 』

柏市非営利団体連絡会(タイムストック柏の会) 代表 堀田 きみ さん



地域には日々いろいろな困りごとがあります。「下の子を病院につれていく間、上の子を看っていてほしい」「年寄りの一人暮らしでごみ出しが大変で…」「腰を痛めて掃除機がかけられない」等々…。ちょっとした手助けを頼みたい時に頼りになるのが地域の“たすけあい団体”です。

活動内容や方法は、団体によりさまざまですが、私たちは、気兼ねなく利用でき、責任を持って応じられるように、有償で活動を行っています。また最近では、利用を希望する人が増えているので、手助けをしてくれる人やたすけあい団体がもっとたくさん必要だと感じています。

「少しでもだれかの役に立って、感謝してもらえると幸せなことです」「△曜日は〇〇さんの所に行くということで、ハリがあるというか自分の健康にも良いみたい」「たすけあいの仲間との出会いも宝物です」

ぜひ、ささえあい活動への参加や新たな活動団体の立ち上げをお待ちしています。



Information

柏市社会福祉協議会から“日常生活支援活動”のススメ

『 求められている生活課題と支援 』

日常生活の課題はいろいろありますが、代表的なものをご紹介します。個人や団体を問わず、身近な地域で支えあい活動に取り組んでみませんか！

生活ごみ等のごみ出し



高齢者や障がい者の中には、生活ごみをごみステーションまで運ぶことが困難な方がいます。また、粗大ごみが出せないという声も聞かれます。

掃除や家事、洗濯などの家事全般



掃除や料理等の家事や重い布団干し、高いところの電球交換等が困難な方がいます。また、庭の草が刈れずに困っているという声も聞かれます。

一人での通院や買い物



高齢や障がいにより一人での通院や通学が不安だったり、買い物をしても帰りの荷物が重くて持てないため、外出に困っている方がいます。

その他

その他にも、次のような課題が聞かれます。

- 町会行事に参加できない
- 仲間がつくりにくい（話相手がいない）
- 障がい者の通学時、バス停までの送迎 など…

柏市社会福祉協議会では、高齢者等への支援の他、新たな支援活動の立上げ支援や情報提供等を行っています。支えあい活動への取り組みをお考えの際は、お気軽にご相談ください。





さまざまな団体と交流や連携をしよう！

さまざまな団体が交流し、特徴を活かしながら連携すること。そして、複雑で多様化した生活課題等の解決（地域包括ケアシステムの構築）や新たな活動の誕生、更なる活動の幅を広げることのできる地域を目指します。

●●● このプロジェクトの目標 ●●●

- ◎ 団体同士がお互いの活動を認め、分野を越えたつながりや交流がある
- ◎ 団体同士の連携やコラボレーションから新たな活動が誕生し続ける

■ なぜ、『さまざまな団体と交流や連携』をするのか

(1) 限られた時間と人材を有効に活用する

柏市には、多様なボランティア活動や市民活動、趣味活動等があります。また、講習や研修会等にも、多くの市民が参加しています。しかし、一方で、福祉分野の活動では、既存団体（活動者）の高齢化や日常生活課題の多様化等による担い手不足が課題とされています。1団体では難しいことでも、他団体との連携により、限られた時間と人材を有効に活用することができます。

(2) 日常生活上の課題解決には、団体間の連携が必要

日常生活上の課題を解決し、安心して地域で住み続けるためには、保健・医療・福祉等との連携（地域包括ケアシステムの構築等）が必要です。また、連携は、専門機関とボランティア団体、町会とNPO法人等、さまざまな形態が考えられます。これからは、分野や組織の枠に捉われない連携が必要になるといえます。

(3) つながることで、活動の幅が広がります

色々な分野や違う考えを持つ団体であっても、同じ目標を持ち、一緒に考え、刺激し合いながら活動することで、新たなアイデアや面白い活動、効率的な仕組み等をつくることができます。

積極的な連携やコラボレーションによる活動は、団体の活動と柏市の市民活動を豊かにするといえます。

●●● 柏市社会福祉協議会への期待 ●●●

- 色々な団体がつながるきっかけや場づくり、コーディネートをしてほしい
- つながりやすい団体や活動等の情報を提供してほしい



“活動実践者”からの活動のススメ

『これからは、交流と連携がポイントです！』

柏市ボランティア連絡協議会 会長 森 雄三 さん



柏市ボランティア連絡協議会では、柏市内でボランティア活動を行うグループが集まり、ネットワークづくりや交流、情報交換等を行っています。そんな中で、今、ボランティアグループの多くが抱える課題として「活動者の高齢化」があります。

新たな人材を確保することが難しく、活動をやめざるを得ないグループもありました。一方、グループ同士の連携や協力がうまくできたことで、イベント時の会員の貸し借りやそれをきっかけに新規会員の獲得に結びついたグループもありました。今では、すべてをグループ内で解決しようとせず、積極的に交流し、連携することの大切さを、日々感じています。柏市には、ボランティアグループの他、NPO法人、町会自治会、趣味サークル等、さまざまな活動形態や活動内容があり、若い人も多くの場で活躍しています。

これからは、世代や枠に捉われず、思い切ってどんどん色々な団体と交流して、連携して、みんなで柏市の地域活動や市民活動の輪を広げて行きましょう。

今まで思いもよらなかった新しい発見や面白い活動につながるかもしれません。



柏市社会福祉協議会からの“団体交流・連携”のススメ

『交流や連携がもたらすメリットとは…』

さまざまな団体との交流や連携からは、さまざまなメリットを得ることができます。あまり難しく考えずに積極的に色々な団体等とつながりを持ってみませんか！

“新たな発想”

違う視点からの新たな発想やアイデア、気づきが得られる！

“規模拡大”

一緒に取り組むことでより大きな行事や活動を行うことができる！

“活動の励み”

協力者や理解者等の仲間の存在は、活動の励みにつながる！

“負担軽減”

一緒に取り組むことで、役割分担等ができて、負担を分散できる！

“情報共有”

他団体とのネットワークにより、色々な情報をお互いに共有できる！

次のイベントは一緒にやりましょう！



“弱みを補う”

団体の弱みや苦手なところを連携や協働で補うことができる！

柏市社会福祉協議会では、団体同士の新たな連携やネットワークづくり等の支援を行っています。新たな連携や取り組みをお考えの際は、お気軽にご相談ください。社会福祉協議会とのコラボ企画も大歓迎です。



IV 取り組みの推進と評価

本計画の推進と評価に際し大切なことは、本計画を通じて市民一人ひとりや関係団体・機関等が、身近な地域の中で、『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち 柏』の達成に向けて、「どれだけ新たな取り組みが始められたか」また、「現在の活動を継続し、さらに発展することができたか」にあります。そして、その取り組みを通じて、「地域における生活課題が少しでも解決され、子ども・子育て家庭や障がい者、高齢者等の中で、支援を必要としている人であっても、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるような地域づくりが進んでいるか」にあるといえます。

以上のことを踏まえ、本計画の推進と評価については、本計画を策定し推進する柏市社会福祉協議会が今後5年間を掛けて、柏市民や関係団体等の協力を得ながら、実施していきます。

(1) 取り組みの推進

柏市民や関係団体、機関等に対し、本計画の普及啓発と取り組みの推進を行います。また、取り組みを始めようとする市民や団体等については、積極的に情報提供や支援等を行います。

(2) 取り組みの共有

地域福祉の情報紙「紙ひこうき」やホームページ等を通じて、計画の推進状況を広く掲載し、進捗状況の把握や新たな取り組みの際の参考事例となるように、それぞれの取り組み等の共有を行います。

(3) 取り組みの評価

本計画で掲げた“6つの地域実践プロジェクト”の取り組みに関する情報を収集し、その広がりや取り組み状況を中心に、本計画の評価を行います。なお評価については、第4期柏市地域健康福祉活動計画の策定時に設置される策定委員会等により、広く市民や関係者により行います。

社協アクションプラン

I 社協アクションプランとは

1 アクションプランと市社協の取り組み

(1) アクションプランとは

アクションプランとは、行政計画である「地域健康福祉計画」の地域健康福祉像や基本方針、また民間計画である「地域健康福祉活動計画」の地域実践プロジェクトを踏まえ、この5年間で市社協が実施すべき取り組みを具体的に示した計画です。

(2) アクションプランの取り組みについて

アクションプランは、大きく「重点的な取り組み（リーディング事業）」と「具体的な取り組み」の2つの取り組みで構成されています。

① 重点的な取り組み（リーディング事業）

今後5年間、特に力を入れる取り組みは、「孤立させない体制づくり」「重層的な支えあい活動の推進と支援」「協議体機能を活かした新たな活動の創造」とします。なお、第2期地域健康福祉活動計画で掲げた「コーディネーターの配置」「支えあい活動の立上げ支援」「ボランティアの育成支援」は、引き続き「具体的な取り組み」の中で推進します。

② 具体的な取り組み

今後5年間、全国的な社協活動の方向性や柏市の地域課題等を踏まえ、社協の福祉課題への取り組みを計画化したものです。柱は大きく社協事業の区分（担当部署）を中心に区分されています。なお、これらの取り組みは、地域全体で取り組む6つの地域実践プロジェクトを、市社協として後押しする取り組みでもあります。

(3) 社協活動の方向性（全社協／社協・生活支援活動強化方針）

全国社会福祉協議会は、平成24年10月に「社協・生活支援活動強化方針」として、地域における深刻な生活課題の解決や孤立防止に向けた今後の社協活動の方向性を示しました。その中で、「社会福祉協議会は、住民主体を旨とする地域福祉推進の中核的な組織として、役職員が一丸となって、深刻な生活課題や社会的孤立などの新たな地域福祉の課題に向き合い、地域のあらゆる生活課題を受け止め、相談・支援や解決につなげ、だれもが安心して暮らすことができる地域に根ざした福祉のまちづくりに取り組む」旨を行動宣言として示しています。また、「あらゆる生活課題への対応」「相談・支援体制の強化」「アウトリーチの徹底」「地域のつながりの再構築」「行政とのパートナーシップ」という5項目を掲げ、それぞれに具体的な取り組みを掲げています。なお、これらの5つの項目における取り組み内容は、現在の柏市社協の活動状況を踏まえ、本アクションプランに反映させています。

2 地域福祉の進め方

市社協は、柏市民が住む地域での活動を最も重要視しています。それは、市民が生活する場であり、身近な助けあいや支えあいが必要不可欠な場だからです。

だれもが住みよい地域づくりの取り組みは、隣近所の助けあいから、町会・自治会、ボランティア団体、NPO法人、福祉施設、学校等あらゆる関係者が協力しあう地域ぐるみの取り組みまでさまざまです。

市社協は、子育て支援や高齢者、障がい者の日常生活支援等、身近な地域の課題解決や支えあいの関係やしくみづくりを下記のような取り組みにより進めます。

(1) 地域活動組織の設置と支援

各地区の特性を踏まえた地域活動を組織的・効果的に取り組むために、住民組織として『地域活動組織（地区社会福祉協議会）』を設置しています。

現在では、ふるさと協議会との一本化の推進により、ふるさと協議会の福祉部門を担う組織として活動を進めており、身近な福祉課題の解決や活動において中心的な役割を担っています。また、第2期地域健康福祉活動計画において、「イベント型から支えあい型への移行」が進む中で、地域のさまざまな団体との連携や協働、支援等への取り組みも行います。

(2) 地域活動センターの設置と展開

市民の身近な場所（近隣センター等）で福祉相談や地域活動の支援を行うために『地域活動センター』を設置しています。この取り組みは、第2期地域健康福祉活動計画から始まり、これからの社協における地域支援の中心的な拠点として、コミュニティエリアを基本単位とした設置を目指し、概ね2年に1ヶ所のペースで設置を進めています。今後も柏市や地元地域の協力を得ながら、新たなセンターの設置を進め、市民の相談窓口や地域支援、連携拠点としてその機能の充実に取り組みます。

【参考】地域活動センター



《主な取り組み》

- ・福祉の総合相談
- ・住民参加型有償サービスの調整
- ・ボランティア活動の支援や調整
- ・新たな人材育成
- ・地域組織との連携や活動の支援など

《平成26年3月現在設置場所（それぞれ週3日開所）》

- 風早南部地域活動センター（高柳近隣センター内）
- 松葉町地域活動センター（松葉町近隣センター内）
- 光ヶ丘地域活動センター（光ヶ丘近隣センター内）

(3) 地区担当職員の配置とコミュニティソーシャルワーク

地区社協の活動支援や地域性に合わせた取り組みを推進するために、各地区に『地区担当職員』を配置しています。当初は、地区社協の支援担当者として設置されました。しかし地域活動センターの設置や地区社協とふるさと協議会との統合等を踏まえ、今後は、その地区におけるさまざまな生活課題等を発見し、地域の社会資源と上手く連携しながら、その解決に取り組む(コミュニティソーシャルワーク)存在として、地域支援に取り組みます。

3 市社協活動への期待

地域健康福祉像の実現に向けて、地域福祉の推進役である市社協は、柏市が策定する第3期柏市地域健康福祉計画で次のような取り組みを期待されています。

(1) 地域健康福祉活動計画の策定と推進

地域や民間組織、団体等が具体的に行う活動の方向性を示し、地域健康福祉活動の推進を図ることが期待されています。

(2) 地区別計画の策定と推進

各地区の地域特性を活かした地区別計画を地域住民とともに策定し、地域健康福祉活動の推進を図ることを期待されています。

(3) 身近な地域でのコーディネート機能の充実

地域課題を把握しながら、活動が効果的に行われるように調整するコーディネート機能（地域活動センター機能）の充実が期待されています。

(4) 人材（地域活動の担い手等）の育成と発掘

はじめてでも気軽にボランティア活動に取り組めるようにボランティア情報の発信や活動機会の充実等、ボランティア活動の促進が期待されています。

(5) 意識啓発・福祉教育の充実

子どもの頃からの健康福祉教育やあらゆる年齢層の人が地域健康福祉を学び、支えあい等の活動が活発になるような機運の醸成が期待されています。

(6) 権利擁護のしくみの周知と利用促進

「成年後見制度」や「日常生活自立支援事業」の周知と利用促進、「市民後見人」の養成に向けた連携が期待されています。

(7) 災害時の対策の充実

災害時における災害ボランティアセンター設置と連携が期待されています。

Ⅱ 重点的な取り組み（リーディング事業）

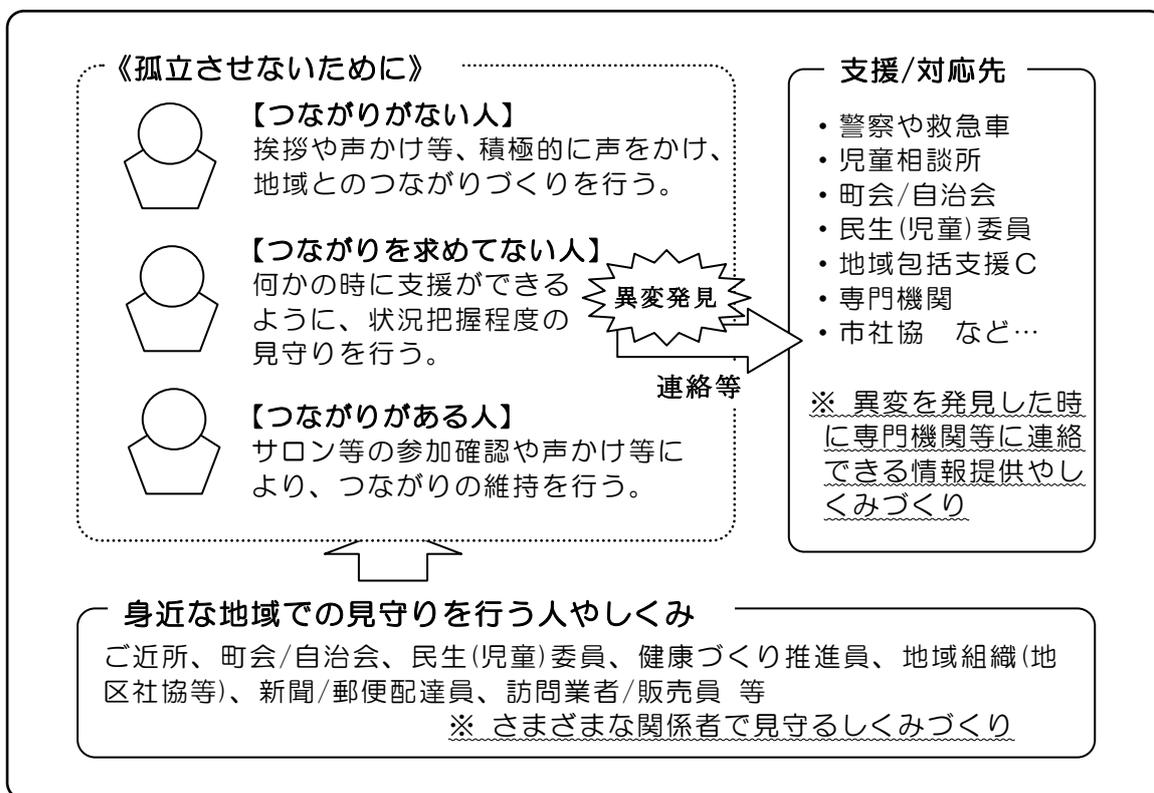
1 孤立させない体制づくり

近隣関係の希薄化や家族形態の変化、経済不況等による社会的孤立は、全国的な課題となり、高齢者だけでなく、育児中の母親や障がい者、生活困窮者、若者まで、だれもが陥る社会的な問題となりました。近年では、要援護者支援や見守り、サロンでの仲間づくり等、孤立させないための取り組みが広く進められています。

しかし、どの取り組み等からも漏れてしまう人、訪問や参加を拒む人等もあり、社会的孤立防止の取り組みは、地域全体で取り組むべき課題と言えます。

今後、たとえ高齢者が一人暮らしになっても、地域で安心して生活をするためには、身近な地域での日常的な見守りやつながりづくりが必要です。

柏市社会福祉協議会は、『身近な地域での日常的な見守り等による孤立させない体制づくり』を進めていきます。



●●● 柏市社会福祉協議会の主な取り組み ●●●

- ・ 町会や自治会単位の支えあい活動の支援〔34 頁…1-1(3)〕
- ・ 新たな地域の居場所づくり〔35 頁…1-2(1)〕
- ・ “支えられ上手”の啓発〔36 頁…1-2(3)〕
- ・ 地域単位での障がい理解への取り組みの促進〔39 頁…2-2(1)〕
- ・ 精神的不安を抱える市民が社会参加・復帰しやすい環境づくり〔43 頁…3-3(2)〕

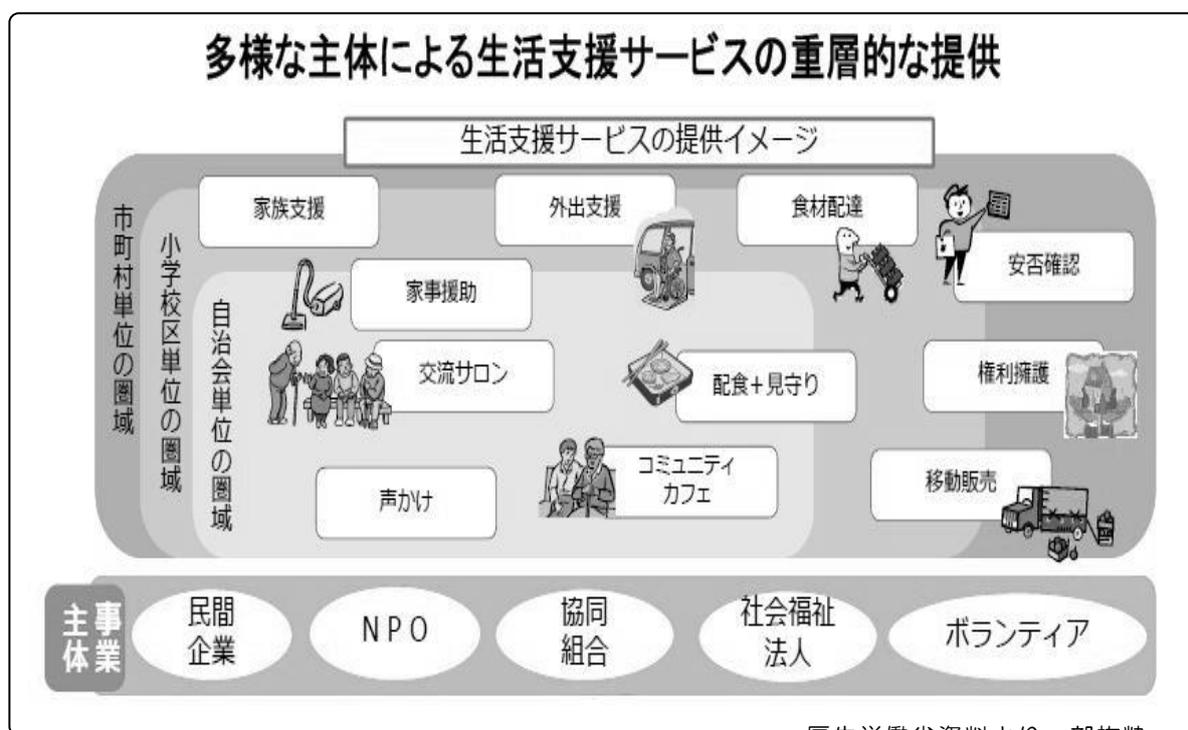
など…

2 重層的な支えあい活動の推進と支援

在宅で暮らす高齢者や障がい者等が抱える日常生活課題（ごみ出し等）は、年々増加傾向にあります。一方で、その課題解決に向けては、多様な団体が生活支援サービスに取り組み始めています。しかし、各団体が、その種別や規模を越えて、同じ地域に共存したり、連携や協働して支援サービスを提供するケースは、まだあまりみられません。

今後、生活課題を抱えながらも在宅で安心して生活するためには、公的なサービスとともに、多様な事業主体による重層的な生活支援サービスの提供が必要です。

柏市社会福祉協議会は、『支えあい活動の更なる推進と連携、協働による重層的な支援体制の構築』に向けた取り組みを進めていきます。



●●● 柏市社会福祉協議会の主な取り組み ●●●

- 助けあいの重層化の推進〔34頁…1-1(1)〕
- 町会や自治会単位の支えあい活動の支援〔34頁…1-1(3)〕
- 「地域+NPO法人等」による助けあい活動の推進〔35頁…1-1(4)〕
- 日常生活課題に対するボランティアの育成〔43頁…3-3(4)〕
- 在宅福祉サービスに取り組む非営利団体等の支援〔44頁…4-2(1)〕
- 各団体の強みを活かした利用者支援の連携、しくみづくり〔45頁…4-2(2)〕

など…

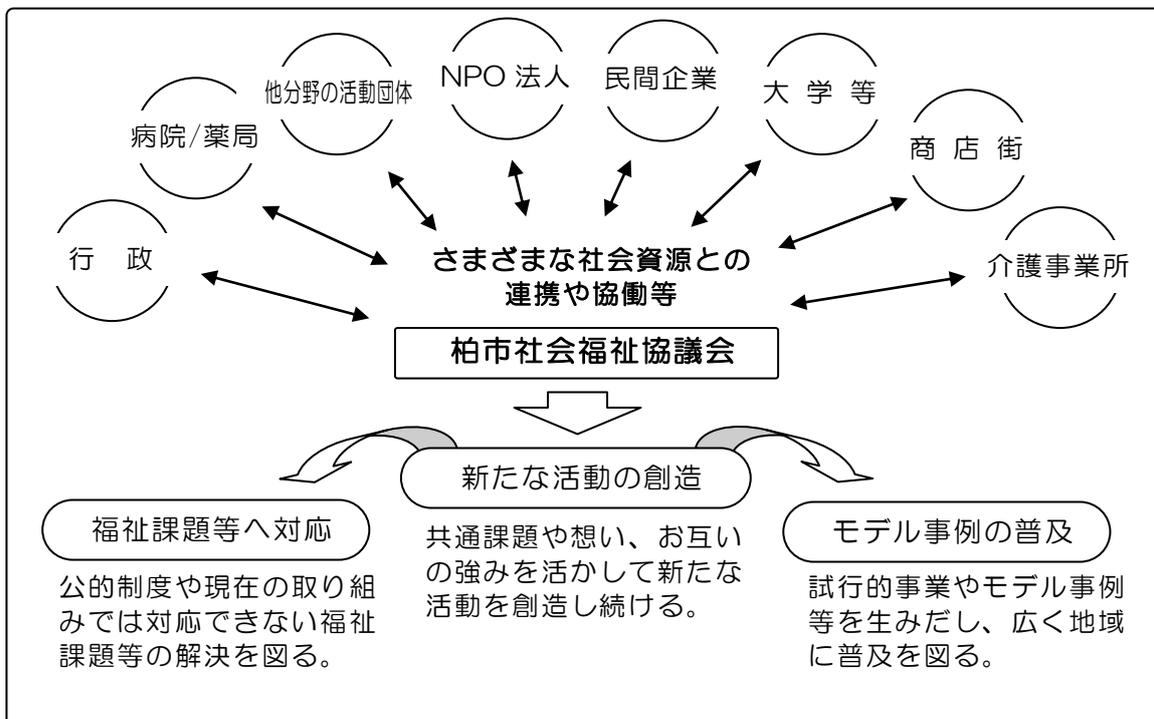
3 協議体機能を活かした新たな活動の創造

地域における生活福祉課題は複雑多様化し、現状の公的制度や支援サービスでは、解決できない課題があります。また、今まで家族間や隣近所等で支えてきた課題も、担い手不足や高齢化等により、このままでは対応しきれなくなっています。

今後、あらゆる生活福祉課題等に対応するためには、従来の取り組みとともに、色々な分野や違う考えを持つ団体、関係機関等との連携や協働による新たな活動の創造が必要です。

社会福祉協議会は、多くの関係機関や団体等により構成される協議体組織であり、柏市には、ボランティアやNPO法人等のさまざまな活動団体や機関があります。

柏市社会福祉協議会は、その協議体機能と柏市の社会資源を活かし『**さまざまな団体や関係機関との連携や協働等による新たな活動の創造**』に向けた取り組みを進めていきます。



●●● 柏市社会福祉協議会の主な取り組み ●●●

- ・ 「地域＋NPO法人等」による助けあい活動の推進〔35頁…1-1(4)〕
 - ・ モデル的な地域づくり・福祉活動の創造〔36頁…1-3(3)〕
 - ・ 新たな登録制度によるNPO法人との連携強化〔40頁…3-1(1)〕
 - ・ 企業との新たな連携の開拓と事業の考案〔40頁…3-1(3)〕
 - ・ 企業が応援するボランティア活動支援のしくみづくり〔41頁…3-1(4)〕
 - ・ 大学生とボラセンがつながる仮称「ボラキャン」の実施〔43頁…3-3(1)〕
- など…

Ⅲ 具体的な取り組み

具体的な取り組みは、市社協事業を大きく7つ（主に担当部署を中心としたもの）に分け、それぞれの取り組みをまとめています。これらの取り組みは、福祉課題に対する市社協の取り組みを計画化したものであるとともに、地域全体で取り組む6つの地域実践プロジェクトを後押しするものでもあります。

また、その取り組みは、高齢者や障がい者に限るものではなく、子育て支援や災害対策等、広く市民全般を対象としています。

取り組みの柱	取り組みの内容
1 地域活動の支援	地域を基盤としたしくみづくりや活動支援を行います。 <ul style="list-style-type: none"> -1 日常生活課題の解決に向けた地域活動の推進と支援 -2 地域住民同士が繋がりがあえるしくみの推進 -3 地域活動センターを軸とした地域支援の更なる推進 -4 地域包括ケアシステムの構築に向けた先駆的な取り組み
2 福祉教育 (福祉意識の醸成)	障がい理解や福祉の心、支えあい意識の醸成を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> -1 福祉意識の醸成に向けたしくみづくりと充実 -2 市民・専門職等への障がい理解への促進
3 ボランティア 活動の推進	活動の促進や人材育成、団体支援、連携促進等を行います。 <ul style="list-style-type: none"> -1 NPO法人、企業との連携強化と協働事業の展開 -2 地域活動やボランティア活動に参加、連携しやすい機会と場づくり -3 ニーズに基づく新たな人材育成と活動の組織化
4 在宅福祉 サービスの充実	在宅福祉サービスの推進と制度では対応できない支援の検討と実施を行います。 <ul style="list-style-type: none"> -1 在宅福祉サービスの総合的支援体制の構築 -2 各種在宅福祉サービス支援団体との役割分担と連携 -3 制度や他団体等では対応できない生活支援の検討実施
5 総合相談	各種相談事業の相談内容から新たな支援の検討を行います。 <ul style="list-style-type: none"> -1 社協内の各種相談内容の集約と分析及び社会化 -2 分析結果から見える課題の解決策を社協事業に反映 -3 生活困窮者自立生活支援への連携と取り組み
6 権利擁護	高齢者や障がい者等の権利擁護とその普及啓発を行います。 <ul style="list-style-type: none"> -1 権利擁護事業の総合的支援体制の構築 -2 市民後見人養成、育成と自立 -3 制度利用前後も含めた対象者の拡大による総合的支援
7 災害支援	災害時の支援体制づくりを行います。 <ul style="list-style-type: none"> -1 災害時に備えた体制づくり

【参考】具体的な取り組みと対象との関係 ※ 取り組みの主となる対象は「◎」

項目		掲載ページ	子ども・子育て支援	障がい者支援	高齢者支援	地域(市民全般)や団体支援	
1 地域活動の支援	1-1	(1) 助けあいの重層化の推進	34	○	○	○	◎
		(2) 地域組織における福祉活動の方向性の確立	34	○	○	○	◎
		(3) 町会や自治会単位の助けあい活動の支援	34	○	○	○	◎
		(4) 「地域+NPO法人等」による助けあい活動の推進	35	○	○	○	◎
		(5) 地区担当職員制による地域課題解決及び支援体制の強化	35	○	○	○	◎
		(6) 地域の子ども・子育て支援活動の充実とネットワークの推進	35	◎			◎
	1-2	(1) 新たな地域の居場所づくり	35	◎	◎	◎	◎
		(2) “人のつながりを生む” 介護予防技術の創造と普及	36			◎	○
		(3) “支えられ上手” の啓発	36	◎	◎	◎	◎
	1-3	(1) 地域活動センター設置目標(中長期)の作成	36				◎
		(2) 新たな地域活動センターの設置	36	○	○	○	◎
		(3) モデル的な地域づくり・福祉活動の創造	36	○	○	○	◎
		(4) さまざまな人材と地域活動のコーディネート	37				◎
1-4	(1) 日常生活圏域における高齢者のニーズに応じた地域包括ケアシステムの構築	37			◎		
(福祉意識の醸成)	2-1	(1) 「柏の福祉教育」の確立	38	◎			
		(2) 福祉教育ボランティアの養成	38	◎			
		(3) 「福祉の心」作品展のブランド化	38	◎	○	○	○
		(4) 世代を問わず福祉教育に触れることのできる機会の提供	38				◎
	2-2	(1) 地域単位での障がい理解への取り組みの促進	39		◎		○
		(2) 障がい者と市民・専門職との接点づくり	39		◎		
		(3) 「障害者差別解消法」の普及啓発	39		◎		○
		(4) 認知症理解への取り組み	39			◎	○
3 ボランティア活動の推進	3-1	(1) 新たな登録制度によるNPO法人との連携強化	40				◎
		(2) 企業の社会貢献活動の相談事業	40				◎
		(3) 企業との新たな連携の開拓と事業の考案	40				◎
		(4) 企業が応援するボランティア活動支援のしくみづくり	41				◎
	3-2	(1) コーディネート機能の充実とコーディネーターの資質向上	41				◎
		(2) さまざまな入口から活動に参加できる機会の創出	41				◎
		(3) 潜在的な人材に対する情報の発信と活動場所の提供	41				◎
		(4) 「夏ボラのススメ」の強化	42	◎			
		(5) 介護予防を切り口とした地域参画とボランティアの推進	42			◎	○
		(6) 生涯学習と連携した地域参加と活動の場づくり	42				◎
		(7) ボランティア連絡協議会との連携と支援	42				◎
		(8) 地域活動団体の交流の場づくり	42				◎
	3-3	(1) 大学生とボラセンがつながる仮称「ボラキャン(volunteer campus)」の実施	43				◎
(2) 精神的不安を抱える市民が社会参加・復帰しやすい環境づくり		43		◎		○	
(3) 退職後の地域活動デビューに向けた支援と担い手の確保		43				◎	
(4) 日常生活課題に対するボランティアの育成		43	○	○	○	◎	

項 目		掲載 ページ	子ども・子 育て支援	障がい者 支援	高齢者 支援	地域(市民 全般)や 団体支援	
4 在宅福祉サ ービスの充 実	4-1	(1) 在宅福祉サービス事業の統合	44	◎	◎	◎	
		(2) 支援サービスの安定化と質の高いサービスの提供	44	◎	◎	◎	
	4-2	(1) 在宅福祉サービスに取り組む非営利団体等の支援	44	○	○	○	◎
		(2) 各団体の強みを活かした利用者支援の連携、しくみづくり	45	○	○	○	◎
	4-3	(1) 新たな在宅福祉サービスメニューの制度化	45	◎	◎	◎	◎
		(2) ひとり親家庭を対象とした教育ファンドの研究	45	◎			
		(3) 子ども室やにこにこテイズ等の取り組みの充実	45	◎			
(4) 新たな子ども・子育て支援への取り組み		45	◎				
(5) 障がい者の就労支援		46		◎			
5 総合相談	5-1	(1) 相談データの蓄積と分析	47			◎	
		(2) 相談内容から見える地域課題の社会化	47			◎	
	5-2	(1) 課題解決への新たな取り組みの開発と市社協事業の見直し	47			◎	
	5-3	(1) 生活困窮者自立生活支援への連携と取り組み	48			◎	
(2) 貸付事業の見直し		48			◎		
6 権利擁護	6-1	(1) 事業の統合による総合的な支援体制の構築	49		◎	◎	
		(2) 日常生活支援事業の市単独事業化	49		◎	◎	
	6-2	(1) 市民後見人の育成	49		◎	◎	
		(2) 成年後見人等監督人への体制づくり	50		◎	◎	
6-3	(1) 任意後見、死後事務の実施	50		◎	◎		
7 災害支援	7-1	(1) 防災や減災対策の普及啓発	51			◎	
		(2) NPO法人や企業等の関係団体との連携体制の構築	51			◎	
		(3) 災害ボランティアコーディネーターの養成とフォローアップの充実	51			◎	
		(4) 必要な資機材や備蓄整備と管理体制の徹底	52			◎	
		(5) 災害時対応訓練の実施とマニュアルの見直し	52			◎	

1 地域活動の支援

《取り組みの柱》

- 1 日常生活課題の解決に向けた地域活動の推進と支援
- 2 地域住民同士が繋がりがあえるしくみの推進
- 3 地域活動センターを軸とした地域支援の更なる推進
- 4 地域包括ケアシステムの構築に向けた先駆的な取り組み

1-1 日常生活課題の解決に向けた地域活動の推進と支援

(1) 助けあいの重層化の推進

地域組織（地区社協等）、NPO法人、企業等の多種多様な日常生活支援への取り組みが共存し、協働しあえるしくみと環境づくりに取り組みます。

① 重層化のしくみづくりと周知

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

(2) 地域組織における福祉活動の方向性の確立

地域組織（地区社協等）における福祉活動の役割や重点的に取り組む活動を確立し、地域組織（地区社協等）を中心とした地域福祉の推進に取り組みます。

① 方向性の確立と共通理解

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	見直し

(3) 町会や自治会単位の支えあい活動の支援

身近な支えあいを推進するために、町会や自治会単位での日常的な見守りや災害時を意識した要援護者等の見守り（K-Netの活用等）、高齢者や子育てサロン、助けあい活動の運営及び立ち上げ等の支援に取り組みます。

① 支えあい活動の支援

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	指標≫支えあい活動数 [平成24年度実績値：221]				
	280			300	

② K-Netを活かした見守りのしくみづくりと支援

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

(4) 「地域＋NPO法人等」による助けあい活動の推進

地域＋NPO法人等による助けあい活動のモデル事例の創出と普及に取り組みます。

① 地域＋NPO法人等の実現

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	地域＋NPO法人等の事例数 [平成24年度実績値：－]				
	1	2	3	4	5

(5) 地区担当職員制による地域課題解決及び支援体制の強化

各地区担当職員が積極的に地域に足を運び、住民と協働してさまざまな生活課題の発見や課題解決、ネットワークづくりに取り組みます。また、各地区で策定している地区別計画の目標達成に向けた支援に取り組みます。

① 地区担当職員(CSW)による地域支援

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

(6) 地域の子ども・子育て支援活動の充実とネットワークの推進

地域の子ども・子育て支援活動に関する定期的な情報提供と活動者間の情報交換及び研修の機会を設け、活動の充実とネットワークの構築に取り組みます。

① ネットワーク会議・研修の開催

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

1-2 地域住民同士が繋がりあえるしくみの推進

(1) 新たな地域の居場所づくり

既存の高齢者や子育てサロン、コミュニティカフェ等をもとに、さまざまな分野とのコラボレーションによる子どもから高齢者まで、だれもが集える新たな地域の居場所づくりに取り組みます。

① 新たな居場所づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	新たな居場所の創設数 [平成24年度実績値：－]				
	1	2	3	4	5

(2) “人のつながりを生む” 介護予防技術の創造と普及

高齢者サロン等で活用できる“人のつながりを生む”介護予防技術を新たに作り出すとともに、その普及（マキコム等）に取り組みます。

① 介護予防技術の創造

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) “支えられ上手” の啓発

困った時に「支えて（助けて）」と言える市民が増え、地域に自然な支えあいの輪が広がることを目指し、その啓発に取り組みます。

① 積極的な啓発活動

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

1-3 地域活動センターを軸とした地域支援の更なる推進

(1) 地域活動センター設置目標（中長期）の作成

設置時期や場所等の目標を作成し、政策協議の基礎資料とするとともに、設置に向けて地域住民への働きかけ等を行い、地域活動センターの更なる設置に取り組みます。

① 設置目標の作成

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	見直し	⇒	見直し

(2) 新たな地域活動センターの設置

市との協議の上、順次新たな地域活動センターを設置し、市民の身近な場所での地域活動支援の拡大に取り組みます。

① 新たな地域活動センター設置

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	地域活動センター設置数 [平成25年度実績値：3]				
		4		5	5

(3) モデル的な地域づくり・福祉活動の創造

地域活動センター単位で、地域の特徴をいかした新たな地域づくり・福祉活動モデルを創造し、先行事例として、広くその普及に取り組みます。

① モデル事例の創造

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	モデル事例の創造数 [平成24年度実績値：2]				
	3	4	5	6	7

(4) さまざまな人材と地域活動のコーディネート

地域活動センター単位で、身近な人材をさまざまな活動につなげ、地域活動の担い手の拡大と活動の活性化に取り組みます。

① 新たな人材の発掘とコーディネート

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

1-4 地域包括ケアシステムの構築に向けた先進的な取り組み

(1) 日常生活圏域における高齢者のニーズに応じた地域包括ケアシステムの構築

受託した包括支援センターの圏域をモデルに、個別事例に基づく検討を通して、地域課題の解決策を話しあう場づくりに取り組みます。

① 地域課題解決に向けた協議の場づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	ネットワーク会議、地域ケア会議の開催数 [平成24年度実績値：3]				
	6		9		12

2 福祉教育（福祉意識の醸成）

《取り組みの柱》

- 1 福祉意識の醸成に向けたしくみづくりと充実
- 2 市民・専門職等への障がい理解への促進

2-1 福祉意識の醸成に向けたしくみづくりと充実

(1) 「柏の福祉教育」の確立

小学校（4年生から6年生）と中学校の児童や生徒全員を対象とした「柏の福祉教育」の新たなスタイルの確立に取り組みます。

① 柏の福祉教育スタイルの実行

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 福祉教育ボランティアの養成

多くの学校等で車椅子・アイマスク等の体験学習機会を提供できるように、福祉教育ボランティアの養成に取り組みます。

① 福祉教育ボランティアの養成

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	福祉教育ボランティア数 [平成24年度実績値：10]				
	20		30		40

(3) 「福祉の心」作品展のブランド化

現在の「福祉の心作品展」のPRや展示方法の質を更に向上させ、その価値と応募数の増加を図り、広く福祉意識の醸成を行う原動力となるように取り組みます。

① 事業の価値の向上

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	福祉の心作品展への応募数 [平成24年度実績値：520]				
			600		700

(4) 世代を問わず福祉教育に触れることのできる機会の提供

専門職の育成（実習受入れ）をはじめ、大学、専門学校、一般企業等、世代を問わず福祉に触れる（疑似体験など）機会の提供に取り組みます。

① 福祉教育メニューの充実とPR

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

2-2 市民・専門職等への障がい理解への促進

(1) 地域単位での障がい理解への取り組みの促進

本会の登録団体や福祉施設・関係団体等と連携し、地域単位での障がい（難病含む）理解の促進に取り組みます。また、被災時の対応や地域活動のきっかけづくり等に取り組みます。

① 障がい（難病含む）理解への取り組みの働きかけ

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	取り組み地区数 [平成24年度実績値：4]				
	10			20	

(2) 障がい者と市民・専門職との接点づくり

各種行事や福祉施設・関係団体等との連携により、市民や専門職等が障がい（難病含む）を理解する機会を提供し、障がいへの理解促進に取り組みます。

① 障がい（難病含む）理解への場づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) 「障害者差別解消法」の普及啓発

民間事業者や非営利事業者等に対し、障害者差別解消法（平成28年施行）による障がい者に対する「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮」の理解と早期対応に向けた普及啓発に取り組みます。

① 障害者差別解消法の普及啓発

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒		

(4) 認知症理解への取り組み

認知症であっても、地域で安心して暮らせるように、日常的で具体的な対応も意識した認知症の理解促進に取り組みます。

① 認知症の理解への啓発活動

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

3 ボランティア活動の推進

《取り組みの柱》

- 1 NPO法人、企業との連携強化と協働事業の展開
- 2 地域活動やボランティア活動に参加、連携しやすい機会と場づくり
- 3 ニーズに基づく新たな人材育成と活動の組織化

3-1 NPO法人、企業との連携強化と協働事業の展開

(1) 新たな登録制度によるNPO法人との連携強化

NPO法人も対象とする新たな情報登録制度を啓発し、多くのNPO法人との連携基盤づくりに取り組みます。また、コーディネート業務で新たな連携事業等にも取り組みます。

① 制度の周知と連携方法の検討

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	NPO法人の登録数 [平成24年度実績値：-]				
	60			100	

(2) 企業の社会貢献活動の相談事業

社会貢献活動を推進する（推進したい）企業への情報提供や活動団体等とのコーディネートを行い、企業の社会貢献活動の普及と充実に取り組みます。

① 相談事業の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒
目標値 (単年度)	企業の社会貢献活動に関する新規相談件数 [平成24年度実績値：4]				
	10			20	

(3) 企業との新たな連携の開拓と事業の考案

企業と市社協や地域にとってお互いにメリットを感じることでできる関係（Win-Win）での連携方法を模索、考案し、連携事例を積み重ね、多くの企業の力を市社協や地域の活動に活かせるように取り組みます。

① 連携企業の開拓

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	企業との連携事例数 [平成24年度実績値：9]				
	20			40	

(4) 企業が応援するボランティア活動支援のしくみづくり

企業の協力を得ながら、ボランティア活動を支援、応援する新たなしくみづくりに取り組みます。

① 企業が応援するボランティア活動支援のしくみづくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒

3-2 地域活動やボランティア活動に参加、連携しやすい機会と場づくり

(1) コーディネート機能の充実とコーディネーターの資質向上

ボランティアセンターで、あらゆる相談に対応するために相談や調整機能の向上に取り組みます。また、フォローアップを含めた活動支援、ネットワークを活用したコーディネートに取り組みます。

① コーディネート機能の充実

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	見直し	⇒	⇒
目標値 (単年度)	コーディネート件数（年間）[平成24年度実績値：338]				
	550			600	

(2) さまざまな入口から活動に参加できる機会の創出

入門や体験講座開催のほか、市民活動センターや市民大学と連携を図りながら、数多くの活動につながる入口（きっかけ）づくりに取り組みます。

① 新規ボランティア活動者の確保

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	個人ボランティア登録者数（年間）[平成24年度実績値：319]				
	650			750	

② 市民活動センター等との連携や検討の場づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	見直し	⇒

(3) 潜在的人材に対する情報の発信と活動場所の提供

登録の有無に関わらず、市民がボランティアに参加しやすい情報の発信方法を再考し、偏りのない情報提供に取り組みます。（Facebook、twitter等）

① 新たな発信方法の検討と実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

(4) 「夏ボラのススメ」の強化

参加対象者の選定による更なる周知の強化を図り、学校との連携によるスムーズな事業展開と受入先の充実により参加者の増加に取り組みます。

① 周知の強化と受入先の充実による参加者の増加

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (単年度)	夏ボラのススメ参加者数 [平成24年度実績値：333]				
	500			600	

(5) 介護予防を切り口とした地域参画とボランティアの推進

多種多様で地域参画のきっかけを意識した介護予防事業の推進に取り組みます。

① 講座等の事業展開

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (単年度)	講座等参加者数（年間） [平成24年度実績値：824]				
	900	1,000		1,100	

(6) 生涯学習と連携した地域参加と活動の場づくり

大学等による生涯学習の取り組みと連携し、地域活動への参加や活動の場づくりの推進に取り組みます。

① 生涯学習からの地域活動の場づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(7) ボランティア連絡協議会との連携と支援

ボランティア活動の普及啓発やボランティア団体同士の更なる連携と充実を図るため、ボランティア連絡協議会への支援や連携に取り組みます。

① ボランティア連絡協議会への支援

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(8) 地域活動団体の交流の場づくり

ボランティア団体やNPO法人、企業等の地域活動に取り組む（関心のある）団体がつながりあえる場づくりに取り組みます。

① 交流の場づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (単年度)	定期的な交流の場（年間） [平成24年度実績値：—]				
	2			4	

3-3 ニーズに基づく新たな人材育成と活動の組織化

- (1) 大学生とボラセンがつながる仮称「ボラキャン (volunteer campus)」の実施
 大学生を中心としたつながりを強化し、ボランティアセンターと大学等とのネットワークを構築し、地域活動等への若い力の獲得に取り組みます。

① 仮称)ボラキャンの実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

- (2) 精神的不安を抱える市民が社会参加・復帰しやすい環境づくり

精神的不安を抱える市民の社会復帰を支援する、サポートボランティアの育成や社会復帰へのきっかけとなる活動等の受入先の確保と関係づくりに取り組みます。

① ボランティア育成とサポート活動の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	育成ボランティア数(年間)[平成24年度実績値：-]				
	20			40	

② 受入先の確保と研修等の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (単年度)	受入れ先の数(年間)[平成24年度実績値：-]				
	10			20	

- (3) 退職後の地域活動デビューに向けた支援と担い手の確保

企業や大学、民生委員等と連携し、退職後に地域活動を始めやすいように準備講座の開催や情報提供等の支援を行い、地域活動の新たな担い手確保に取り組みます。

① 準備講座や情報提供等の支援と人材確保

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

- (4) 日常生活課題に対するボランティアの育成

相談内容や地域活動等から見えるさまざまな日常生活課題の解決に向けて必要なボランティアの育成や新たな団体の立ち上げ支援等に取り組みます。

① ニーズに合わせた講座の開催と人材の育成、組織化

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

4 在宅福祉サービスの充実

《取り組みの柱》

- 1 在宅福祉サービスの総合的支援体制の構築
- 2 各種在宅福祉サービス支援団体との役割分担と連携
- 3 制度や他団体等では対応できない生活支援の検討実施

4-1 在宅福祉サービスの総合的支援体制の構築

(1) 在宅福祉サービス事業の統合

市民が利用しやすい在宅福祉サービスにするために、さわやかサービス、ファミリーサポートセンター事業、移動サービスを統合し、在宅福祉サービスの総合的支援体制の構築に取り組みます。

① 在宅福祉サービス事業の統合

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	見直し	⇒

(2) 支援サービスの安定化と質の高いサービスの提供

利用会員に対して、安定的に支援サービスを提供するために協力会員の確保と、質の高いサービスの提供に向けた研修等の充実に取り組みます。

① 協力会員の確保

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	協力会員数 [平成24年度実績値：100]				
	160			200	

② 研修会等の充実

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

4-2 各種在宅福祉サービス支援団体との役割分担と連携

(1) 在宅福祉サービスに取り組む非営利団体等の支援

本会のノウハウを活かし、在宅福祉サービスに取り組む非営利団体や企業等と協働して、新たな人材の育成や活動団体を生みだすための支援等に取り組みます。また、情報交換等の「つながる場づくり」にも取り組みます。

① 非営利団体等の支援

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	研修会や場づくり等の取り組み数 [平成24年度実績値：-]				
	2	4		6	

(2) 各団体の強みを活かした利用者支援の連携、しくみづくり

支援や対応が難しい相談や支援内容であっても、他の支援団体との連携や強みを活かしながら、支援ができるようなしくみづくりに取り組みます。

① 利用者支援の連携体制づくり

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

4-3 制度や他団体等では対応できない生活支援の検討実施

(1) 新たな在宅福祉サービスメニューの制度化

制度では対応できない事例や孤立・生活困窮世帯等の新たな生活課題に対し、サービスメニューを追加する等、その解決に向けた取り組みを行います。

① 制度では対応できない新メニューの検討と追加

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) ひとり親家庭を対象とした教育ファンドの研究

ひとり親家庭に育った子どもの義務教育後の進学を支援することを目的とした「教育ファンド」のような新たな支援制度の研究を行います。

① 新たな支援制度（教育ファンド）の研究

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	—	検討	⇒	⇒	⇒

(3) 子ども室やにこにこデイズ等の取り組みの充実

沼南社会福祉センターにおける子ども室やにこにこデイズ等の子ども・子育て支援をさらに充実させ、子育て中の親子の居心地の良い居場所づくりに取り組みます。

① 子ども室等の充実

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(4) 新たな子ども・子育て支援への取り組み

子ども・子育てに関する新たな支援を検討し、取り組みます。

① 新たな子ども・子育て支援の検討実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒

(5) 障がい者の就労支援

就労支援センターと連携し、一般企業への就職を目指す障がい者の職場体験・実習の場の提供に取り組みます。

① 障がい者の職場体験・実習の場の提供

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	見直し		
目標値 (単年度)	社協における延べ職場体験実習者数 [平成24年度実績値：－]				
	50		100		

5 総合相談

《取り組みの柱》

- 1 市社協内の各種相談内容の集約と分析及び社会化
- 2 分析結果から見える課題の解決策を市社協事業に反映
- 3 生活困窮者自立生活支援への連携と取り組み

5-1 市社協内の各種相談内容の集約と分析及び社会化

(1) 相談データの蓄積と分析

市社協各相談窓口に寄せられる相談内容を集約・蓄積するとともに、相談内容を分析し、支援が必要な生活課題やその傾向の抽出に取り組みます。

① 相談データの集約とデータ集の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	見直し	実施	⇒

② データ分析による生活課題の抽出

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 相談内容から見える地域課題の社会化

相談内容の分析結果から見える生活課題やその傾向等を、市民や関係機関等に広く発信し、地域課題の社会化（認識の共有）に取り組みます。

① 福祉課題の社会化と周知

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

5-2 分析結果から見える課題の解決策を市社協事業に反映

(1) 課題解決への新たな取り組みの開発と市社協事業の見直し

相談内容等の分析結果から見える生活課題とその傾向を踏まえ、既存事業の見直しや新たな事業の検討、実施に取り組みます。

① 分析結果の社協事業への反映

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

5-3 生活困窮者自立生活支援への連携と取り組み

(1) 生活困窮者自立生活支援への連携と取り組み

平成27年度から始まる生活困窮者自立生活支援事業の動向を踏まえ、柏市関係機関における生活困窮者自立支援の取り組みとの連携や市社協での新たな事業の実施に取り組みます。

① 生活困窮者自立生活支援への取り組み

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	見直し	実施

(2) 貸付事業の見直し

相談内容の分析や現行貸付制度の見直し、また生活困窮者自立生活支援等の動向も踏まえ、より生活困窮者の支援に適した貸付制度の構築に取り組みます。

① 貸付制度の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	見直し	実施	⇒	見直し

6 権利擁護

《取り組みの柱》

- 1 権利擁護事業の総合的支援体制の構築
- 2 市民後見人養成、育成と自立
- 3 制度利用前後も含めた対象者の拡大による総合的支援

6-1 権利擁護事業の総合的支援体制の構築

(1) 事業の統合による総合的な支援体制の構築

日常生活自立支援事業、成年後見センター事業を統合し、総合的な支援体制の構築に取り組みます。また、引き続き制度の周知、利用促進に取り組みます。

① 総合的センターの設置

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

② 制度の周知と利用促進

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 日常生活自立支援事業の市単独事業化

日常生活自立支援事業の柏市単独事業化への体制づくりに取り組みます。

① 柏市単独実施への移行

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

6-2 市民後見人養成、育成と自立

(1) 市民後見人の育成

市民後見人として自立した活動を行う人材の育成に取り組みます。

① 継続的な育成と自立

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	見直し
目標値 (単年度)	自立した市民後見人の数 [平成24年度実績値：0]				
	5	5	10	5	

(2) 成年後見人等監督人への体制づくり

自立した市民後見人の活動を支援するため、市社協として成年後見人等の監督人業務を担える体制づくりに取り組みます。

① 成年後見人等監督人業務の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	見直し
目標値 (積算)	家庭裁判所からの後見人選任数 [平成24年度実績値：0]				
			1	3	5

6-3 制度利用前後も含めた対象者の拡大による総合的支援

(1) 任意後見、死後事務の実施

元気なうちから亡くなるまで、継続した支援体制の構築に向けて、任意後見や死後事務について検討し、取り組みます。

① 任意後見業務

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討		⇒	実施	
目標値 (積算)	契約件数 [平成24年度実績値：0]				
			1		2

② 死後事務の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討		⇒	実施	
目標値 (積算)	契約件数 [平成24年度実績値：0]				
				1	2

7 災害支援

《取り組みの柱》

-1 災害時に備えた体制づくり

7-1 災害時に備えた体制づくり

(1) 防災や減災対策の普及啓発

災害時に被害を出来るだけ少なくするために、柏市や関係団体と連携し、地域における防災や減災対策の普及啓発に取り組みます。

① 防災や減災対策の普及啓発

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) NPO法人や企業等の関係団体との連携体制の構築

災害時に連携すべき団体の情報収集や支援団体のニーズ把握を行うとともに、連携体制の構築と協定の締結に取り組みます。

① 連携体制の構築

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値	連携団体数 [平成24年度実績値：0]				
	5			10	

(3) 災害ボランティアコーディネーターの養成とフォローアップの充実

災害ボランティアコーディネーター研修受講者向けの登録制度を設けるとともに、定期的なフォローアップ研修等を実施し、いざという時に動ける人材の確保に取り組みます。

① 災害ボランティアコーディネーター養成研修の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	登録者数(年間) [平成24年度実績値：0]				
	30			50	

(4) 必要な資機材や備蓄整備と管理体制の徹底

整備計画に基づき、必要な資機材の確保や備蓄品の整備を行うとともに、管理体制の徹底に取り組みます。

① 必要な資機材の確保と備蓄品の整備

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 管理体制の徹底

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(5) 災害時対応訓練の実施とマニュアルの見直し

あらゆる状況を想定し、関係団体や市民ボランティアの参加による災害時対応訓練の実施に取り組みます。また、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの検証と見直しを毎年度実施するとともに、担当毎の初期行動マニュアル等についても随時、見直しを図ります。

① 災害ボランティアセンター設置訓練の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 各種マニュアルの検証・見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

社協発展・強化計画

I 社協発展・強化計画とは

1 社協発展・強化計画とは

(1) 社協発展・強化計画とは

社協発展・強化計画とは、柏市社会福祉協議会が、地域福祉を推進する上での使命や経営理念等を明確にするとともに、経営や組織基盤をどのように整備していくかについて、この5年間の取り組みを計画化するものです。

(2) 社協発展・強化計画の取り組みについて

社協発展・強化計画は、4つの戦略を持って構成されています。

- ① 拠点戦略 … 拠点の維持確保等に向けた取り組み
- ② 人事戦略 … 人事サイクルマネジメントに基づく取り組み
- ③ 運営戦略 … 機能的な組織運営等に向けた取り組み
- ④ 財政戦略 … 財政基盤の安定化等に向けた取り組み

(3) 策定の背景

社会福祉協議会は、社会福祉法において「地域福祉を推進することを目的とする団体」として法的に位置づけられ、期待と責務の中で長年に渡り地域福祉の推進に努めてきました。

しかし、近年では、近隣関係の希薄化等による地域基盤の弱体化や地域福祉活動を組織的に実施するNPO法人や介護保険事業者等の台頭など、社協を取り巻く環境は、年々変化し、期待と同時にその存在意義も問われています。

一方で、地域における生活課題は、複雑多様化し、公的サービスだけでは対応できない状況にあります。また、それらの課題解決には、地域包括ケアシステムにみるように、あらゆる関係団体や市民が連携、協力してその解決に取り組まなければなりません。

このような状況の中で、社会福祉協議会は、今こそ「市民参加による事業展開」と「関係機関等で構成された協議体」という強みを活かし、より一層「地域福祉の推進」に貢献していかなければなりません。

すなわち、市民や地域のニーズを的確に把握し、地域福祉を推進する専門集団として、新たなしくみやサービスを生み出す開拓者として、そして、地域福祉の指南役として、広く市民や関係機関の信頼と協力を得られる組織づくりと事業展開を戦略的・計画的に取り組むことが必要となっています。

Ⅱ 社協の使命と経営理念

柏市社会福祉協議会の使命、経営理念、組織運営方針については、第2期計画を引継ぎ下記のとおりとします。また、『地域密着型社協』の考え方も継続させ、さらなる市社協の存在価値の向上と地域福祉の推進に努めます。

1 社協の使命

地域福祉を推進する中核的な団体として
『誰もが安心して暮らすことのできる健康福祉のまちづくりを推進する』

2 経営理念

(1) 地域の健康福祉ニーズに基づく事業や先駆的な取り組みへのたゆみない挑戦

多様化する福祉ニーズや、特に制度の狭間などで、支援の手が届かない福祉課題などをとらえ直し、地域住民や関係機関との連携により、新たな福祉サービスなど先駆的な取り組みへのたゆみない挑戦を続けます。

(2) 住民参加・協働による健康福祉社会の実現

地域住民、民生委員児童委員、ボランティア、市民活動団体、社会福祉施設、福祉サービスを提供する事業者など、地域活動に関わる市民、団体、組織の連携により、住民参加・協働による福祉社会の実現を目指します。

(3) 地域に根ざした利用者本位の健康福祉サービスと総合相談支援体制の実現

地域に根ざした利用者本位の福祉サービス提供や、自立した生活の支援、社会参加の促進等により、誰もが尊厳をもって、地域社会の一員として生活できる地域の実現を目指します。

また、地域住民、関係機関などとの連携により、身近な地域での相談、専門的な相談など、あらゆる相談ニーズに対応するとともに、相談から支援までを一貫して行う総合相談支援体制の構築を目指します。

3 組織運営方針

(1) 地域に開かれた組織づくり

地域に開かれた組織として、運営の透明性と中立性、公正さの確保を図るとともに、情報公開や説明責任を果たします。

(2) 住民参加と専門性の確保

事業の展開にあたっては、住民参加の徹底と職員の専門性を促進します。

(3) 事業評価を踏まえた効果的・効率的な経営

事業の効果測定やコスト把握などの事業評価を適切に行い、効果的で効率的な自律した経営を行います。

(4) 法令順守

全ての役職員は、高潔な論理を保持し、法令を遵守します。

【参考】社会福祉法（抜粋）

第 109 条（市町村社会福祉協議会及び地区福祉協議会）

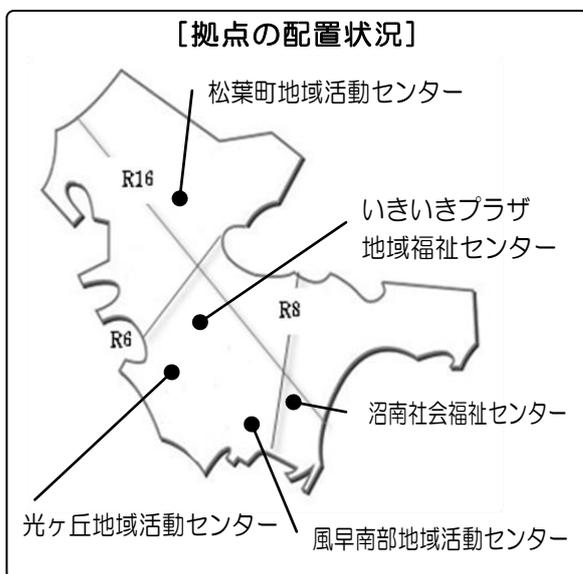
市町村社会福祉協議会は、一又は一都道府県内の二以上の市町村の区域内において次に掲げる事業を行なうことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉を目的とする業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ、指定都市にあつてはその区域内における地区社会福祉協議会の過半数及び社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。

1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
2. 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
3. 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
4. 前三号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

Ⅲ 発展・強化計画

柏市社会福祉協議会の発展強化に向けた今後5年間の具体的な取り組みを「拠点」「人事」「運営」「財政」の4つの視点で計画化したものです。

1 拠点戦略



第2期柏市地域健康福祉活動計画では、事務所機能の「集約」と身近な相談・地域活動支援機能の「分散」の考え方に立ち、拠点整備への取り組みを進めてきました。

特に「地域活動センター」は、現在3ヶ所設置され、更なる設置拡大が望まれています。また、沼南社会福祉センターは、子ども室の充実等、子育て支援機能の強化を図り、子ども・子育て支援の新たな拠点となりました。

この地域活動センターの設置拡大と沼南社会福祉センターにおける子ども・子育て支援の充実は、第3期においても引き続き、取り組んでいきます。

一方、第3期では、ボランティアセンターが設置されている教育福祉会館の耐震補強工事や沼南社会福祉センターの大規模修繕等、ハード面に関する課題への対応が必要となります。特にボランティアセンターの一時移転や再設置は、市と協議しながら、市民が利用しやすい環境維持と整備に努めます。

(1) 新たな地域活動センターの設置

市との協議の上、順次新たな地域活動センターを設置し、市民の身近な場所での相談・地域活動支援の拡大に取り組みます。

① 新たな地域活動センター設置

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目標値 (積算)	地域活動センター設置数 [平成25年度実績値：3]				
	4		5		5

(2) 沼南社会福祉センターにおける子ども・子育て支援機能の充実

沼南社会福祉センターの有効活用の一環として、子ども・子育て支援機能の更なる充実に向けた施設整備と活用に取り組みます。

① 子ども・子育て支援機能の充実（沼南社会福祉センターの活用）

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒

(3) 沼南社会福祉センターの修繕

築15年を迎え、老朽化が進む沼南社会福祉センターの施設設備を維持するため、内外壁改修等の必要な修繕について計画的に取り組みます。

① 沼南社会福祉センターの修繕

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

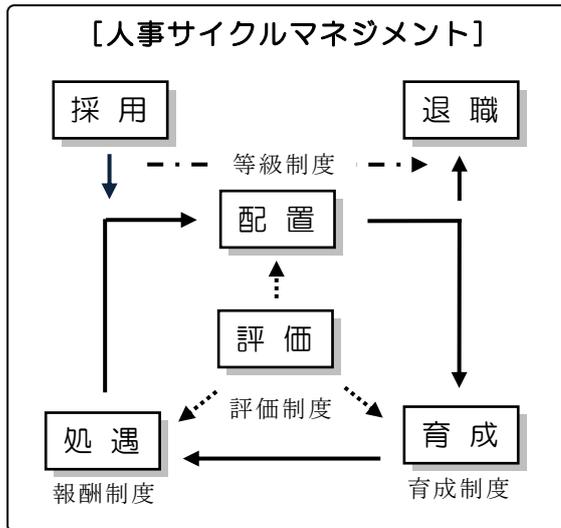
(4) ボランティアセンター設置施設の耐震補強工事に伴う対応

市との協議により、教育福祉会館の耐震補強工事への対応（一時移転等）と工事終了後のボランティアセンターの設置に取り組みます。

① ボランティアセンター設置施設の耐震補強工事に伴う対応

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	準備	一時移転	工事(予定)

2 人事戦略



第2期柏市地域健康福祉活動計画では、組織改革の一環として「職員の専門職化」を中心に、資格取得の促進や人事考課の導入、人事計画の策定等を進めてきました。

特に、社会福祉士等の資格を取得する職員は、年々増加し資格取得に対し、前向きに取り組むようになりました。また、社会保険労務士との契約により制度改革にも取り組むことができました。しかし、第3期においても「人材育成と人事管理」は

大きな課題と言えます。また、「適正な職員構成」への対応も長期的な課題です。

人材育成と人事管理は、市社協職員としての意識改革や専門職（コミュニティソーシャルワーカー）としての高い専門性の確保、企画力、政策提言力。また、組織運営・経営に必要なマネジメント力の養成等、職員の業務や職務に必要な知識と技能は、更なる向上が必要です。市民や関係機関等から心より信頼される職員や組織になるため、人事サイクルマネジメントを踏まえた戦略的な人材育成、労働条件や職場環境の整備等、機能的な人事管理に取り組みます。

適正な職員構成は、経済不況の長期化や近年の退職不補充の原則等により、計画的な人事採用が難しい状況です。しかし、今後予測される職員年齢構成の高齢化や地域活動センターの拡大に伴うコーディネーターの確保等を踏まえ、適正な職員構成の構築と人材確保に向けた取り組みを随時検討、実施していきます。

(1) 適正人員と必要な人材の確保（採用と配置）

事業規模や職員の年齢構成等に基づく適正な職員体制の構築を図るとともに、人事採用計画の見直しや職員採用試験を適正な時期に実施する等、計画的な職員採用等により必要な人材の確保に取り組みます。

① 事業規模や年齢構成等を考慮した人事採用

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 人事採用計画（適正計画）の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度		検討	実施	⇒	⇒

③ 職員採用の早期実施に向けた調整

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度		検討	実施	⇒	⇒

(2) 職員の意識改革と質（専門性等）の向上（育成）

複雑多様化する福祉課題への対応、職務や職階に必要な資質等を身につけ、円滑な組織運営と市民の信頼を勝ち得るため、OJT（職務内）、OFF-JT（職務外）、SDS（自己啓発援助制度）の3つの視点で人材育成を行い職員の意識改革と質（専門性等）の向上に取り組みます。

① 人材育成の体系化と充実強化

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

② 職員の自己啓発への積極的な支援

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) 組織的な資格取得等への取り組み（育成）

社会福祉士等はもとより、コミュニティソーシャルワーカーやボランティアコーディネーター等、事業展開において必要となる職員の資格取得について、組織として計画的にその取得に取り組みます。

① 組織的な資格取得の推進

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

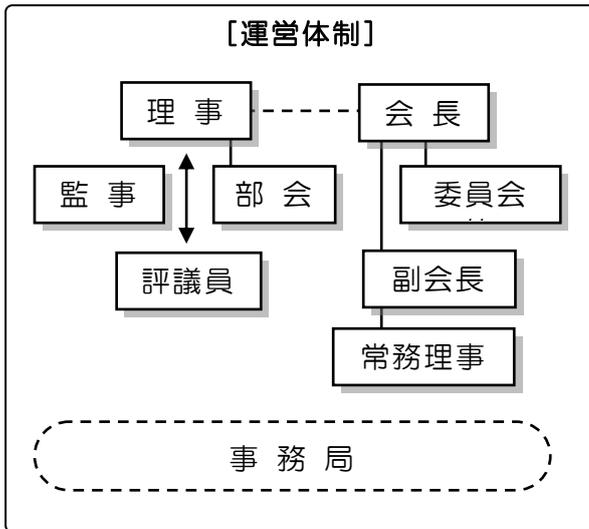
(4) 適正な評価制度の確立と実施（評価と処遇）

人材育成の取り組みとともに、勤務状況や業務実績、成果等が明確な基準のもとに評価し、評価結果が昇給昇格や各種手当等の処遇に反映される適正な評価制度を確立し取り組みます。

① 適正な評価制度の確立と実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

3 運営戦略



第2期柏市地域健康福祉活動計画では、組織改革の一環として「役員・評議員の機能強化」と「地域密着型の組織体制の構築」を掲げ、役員・評議員体制の見直しや学習会、事業説明機会の設定、事務局組織の見直し等に取り組んできました。

特に、体制の見直しは、任期満了時に事業内容等を鑑み、選任区分の変更等を行いました。また、役員・評議員合同研修等を毎年度開催し、市社協の本質理解や柏市長の講演に

よる政策理解等に取り組みました。これらの取り組みは、今後も継続します。

一方、第3期では、**市社協の理解者の増加**や発災時でもいち早く組織的な動きが取れる**災害時の体制整備**等に取り組めます。また、**社会資源との連携**や限られた経営資源（人・モノ・財源・時間）の適正配分、市民の声の反映、事業の有益性や優位性、事業間相乗効果等を考慮した事務事業の評価とスクラップアンドビルドにより、**効率的な組織編成と事業の選択・構成**等に取り組み、効果的な事業展開を図ります。

(1) 役員・評議員の機能強化

改選時の役員・評議員の選出区分等の見直しや定期的な研修会等の実施により執行・議決機関の機能強化に取り組めます。

① 改選時の役員・評議員体制の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施		実施		

② 定期的な研修や事業説明等の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 市社協の理解者増加への取り組み

市社協の理解者を増やすために、既存のPR媒体の定期的な見直しの他、市民だけでなく、行政や団体、企業等、幅広く積極的なPR活動に取り組めます。

① 既存媒体の定期的な見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 行政や団体、企業等への積極的なPR活動の展開

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) 災害時の体制整備

災害発生時、関係者の安否確認や災害ボランティアセンター設置判断等を速やかに行うため、災害時の職員参集や災害対策本部の立上げ等の体制整備と訓練に取り組みます。

① 災害時の体制整備と訓練の実施

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

(4) 効率的な事務局体制の整備と改善

社会資源との効果的な連携や限られた経営資源の適正配分により、効率的な事務局体制の整備を行います。また、体制整備とあわせ、事業等の評価と適正な選択と構成により生産性の高い事業展開に取り組みます。

① 社会資源との効果的な連携

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 効率的な事務局体制の整備と改善

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(5) 柏市との連携強化

市長と会長の懇談会や事業担当者間の課題解決、懸案事項の調整、合意形成等を目的とした会議の開催等、柏市との連携強化に取り組みます。

① 市長と会長の懇談会の開催

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 市社協担当課や各事業担当課との例会や検討会議等の開催

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

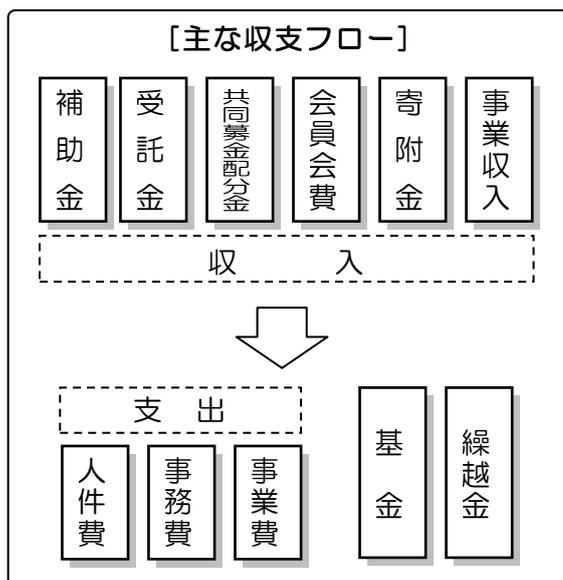
(6) 専門機関との連携強化

市民からのより高度な専門性を有する相談等に対応するため、専門機関との連携の強化に取り組みます。

① 専門機関との連携強化

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

4 財政戦略



第2期柏市地域健康福祉活動計画では、「財政計画の策定」や「自主財源の確保」「公費財源の活用」等による、財政の確保と安定化を掲げていました。給与体系の見直しによる給与水準の引き下げや退職金制度の見直し等により、人件費等の支出抑制に努めましたが、財政面は、まだ多くの課題があります。

第3期では、民間財源の活用や財源の確保に取り組みます。特に**会員制度と寄付制度**は、ファンドレイジングの考え方等を踏まえ、単なる財

源確保に留まらないメッセージ性のある取り組みを行うとともに、寄付文化の醸成等を行います。また、今後も市の福祉施策の一端を担う使命を果たすために、**民間財源の獲得と支出抑制と共に、安定的な補助金の確保**に取り組み、財政基盤の安定を図ります。

(1) 会員制度の見直し

会員制度を再検証し、理解と拡大に向けた見直しを行います。特に、普通会员は理解促進に取り組み、団体や賛助会員は、メッセージ性と戦略的な制度設計による新たな会員拡大に取り組みます。

① 会員制度の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒

(2) 寄付制度の見直し

従来の寄付制度を再検証し、メッセージ性と戦略的な制度設計を図り、民間財源や寄付物品等の有効活用と更なる拡大に取り組みます。

① 寄付金制度の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒

② 物品寄付の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

③ 募金箱設置の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

(3) 新たな財源獲得の取り組み

民間助成団体等の民間財源の活用や自動販売機事業の見直しや新たな財源の獲得に取り組みます。

① 民間助成団体等による民間財源の活用

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 自動販売機事業の見直し

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒

③ 新たな財源の獲得

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒

(4) 共同募金事業への協力

地域や市社協活動の大切な財源となる共同募金運動に積極的に協力し、その周知と募金活動等の充実に取り組みます。

① 共同募金事業への積極的な協力

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(5) 適正な予算編成と配分

各事業に掛かる経費として適正な収入財源を充当するなど、収入と支出の関係性を構築し、適正な予算編成と配分に取り組みます。

① 適正な予算編成と配分

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

(6) 支出抑制とコスト意識の徹底

収入の大幅な増加が見込めない中で、法人運営や各種事業を安定的に行うために、法人としての支出抑制を行うとともに、職員のコスト意識を徹底させ、支出抑制に取り組みます。

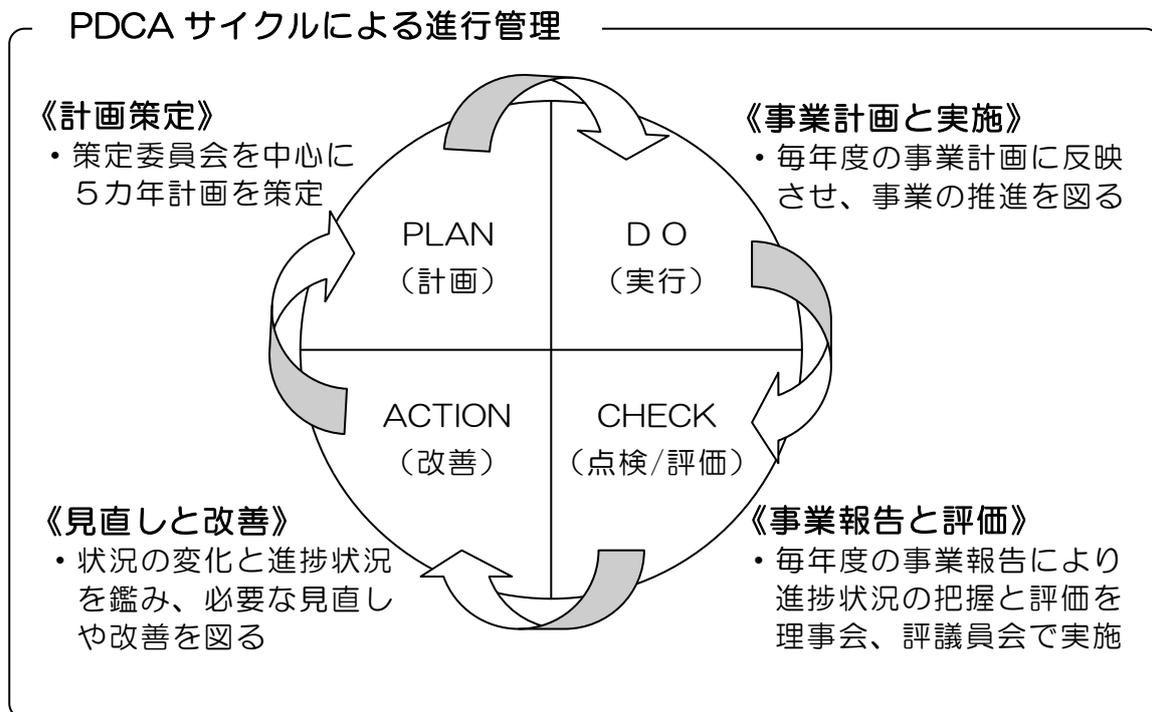
① 支出抑制

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

② 職員のコスト意識の徹底

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒

IV 取り組みの評価



1 PDCA サイクルによる進行管理

「社協アクションプラン」と「社協発展・強化計画」を着実に推進し、成果をあげるために、PDCA サイクルの考え方に基づき5年間の進行管理を行います。

2 内部検証と評価による推進

管理職会議やリーダー会議等の協議の場において、計画の取り組み状況の共有や課題解決のための協議等を行い、効果的な推進を図ります。

3 年次計画や報告への反映と理事、評議員による評価

計画の内容は、毎年度の事業計画へ反映させ、着実な推進を図ります。また、取り組みの実績や成果等は、同じく毎年度の事業報告にまとめ、理事会や評議員会等の場において、評価を行います。

4 取り組み状況の公表

計画の進捗状況や取り組みの内容等は、地域福祉の情報紙やホームページ等により広く市民に公表します。

5 柏市地域健康福祉計画（行政計画）との連携

柏市地域健康福祉計画（行政計画）との一体的な推進を図るため、柏市担当部署と計画の取り組み状況の共有や連携等を行います。

地区別計画

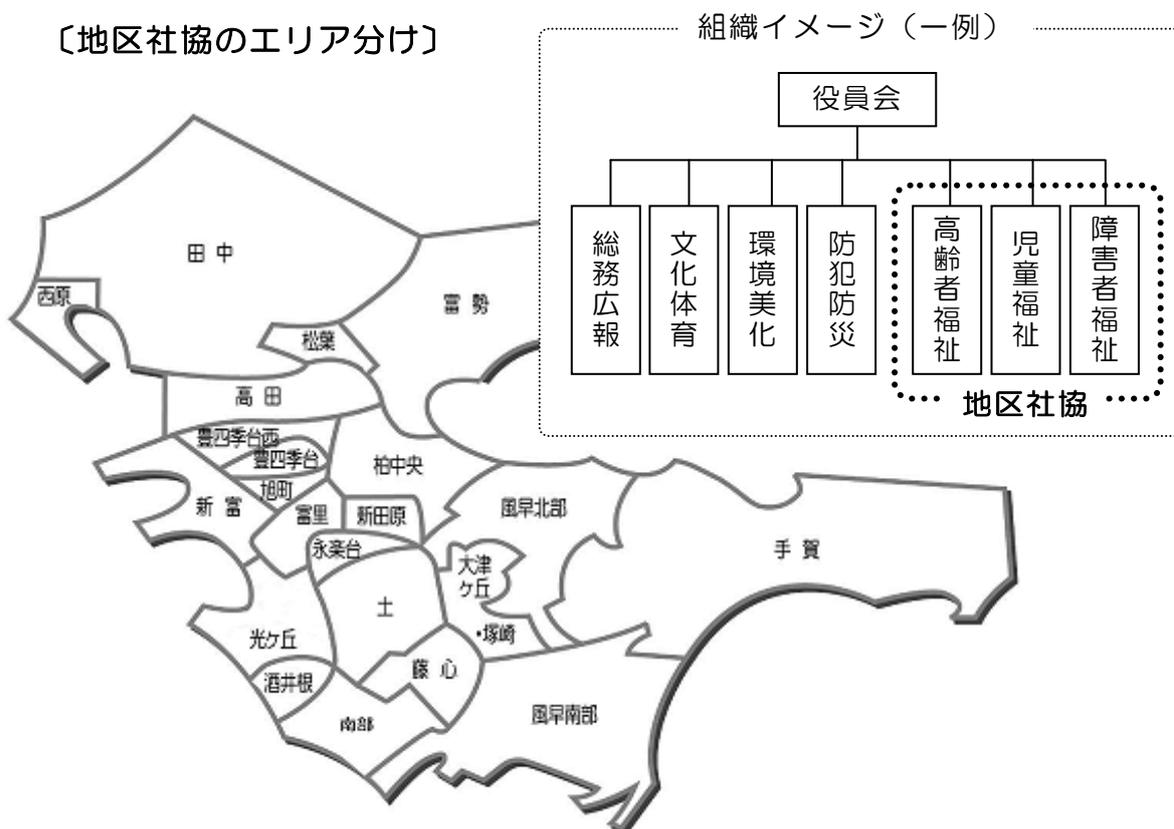
I 地区社会福祉協議会（ふるさと協議会保健福祉部）の活動

1 概要

地区社会福祉協議会は「地区社協」と称され、より身近な地域における住民同士の支えあいや助けあいを推進していくことを目的に、柏市社会福祉協議会が設置した地域福祉推進組織です。

柏市内22地区に設置されており、近年では、ふるさと協議会の福祉活動分野を担う組織として位置づけられています。

〔地区社協のエリア分け〕



2 役割

“ ニーズの発見から解決につなげる ”

地域福祉を推進する地区内の中心組織として、「支えあいや助けあいの仕組みづくり」を行い、解決につなげていく重要な役割を担っています。

3 取り組みの柱

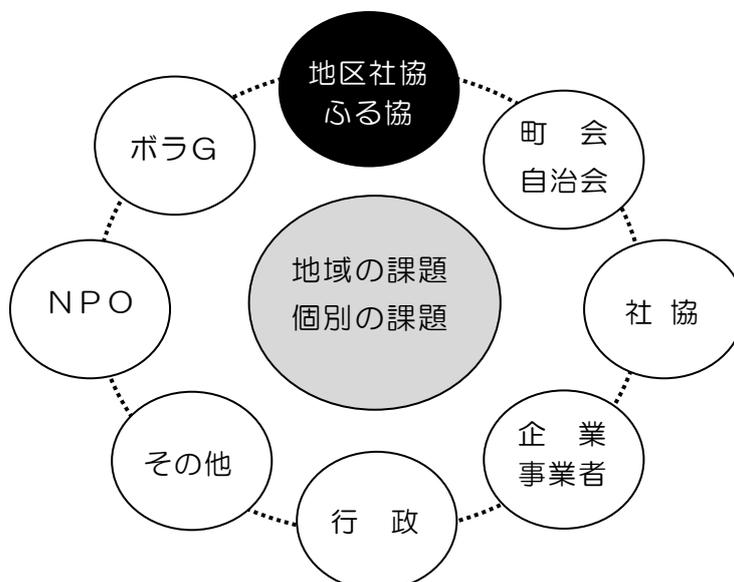
“イベント活動中心から支えあい活動中心への転換”

- (1) ニーズの早期発見から解決に結びつけていく取り組み
活動例≫ 日常の見守り活動、解決ルートづくり、ネットワークづくり など
- (2) 日常生活における困りごとに素早く、柔軟に対応していく取り組み
活動例≫ 日常生活支援活動、相談窓口の開設、災害時対応 など
- (3) 住民の孤立防止や住民同士のつながりを構築していく取り組み
活動例≫ サロン活動、多世代交流、助けてと言える環境づくり など
- (4) 支えあい活動を担う人材や団体を育成し、支援していく取り組み
活動例≫ サロン等の団体支援、人材育成、活動の場づくり など
- (5) 各種団体や組織との連携、協力体制の構築と理解促進の取り組み
活動例≫ 町会・自治会、NPO法人等との連携、地区社協活動のPR など

4 取り組みの視点

“コーディネート役として地域ぐるみで対応”

〔 地域ぐるみの対応 〕



《地域の様々な課題》

- 社会からの孤立、孤独死
- 高齢者のみ世帯の増加
- 児童虐待や高齢者虐待
- 生活困窮世帯の増加
- 制度の狭間の問題
- 複合的な課題を抱える世帯
- 公的支援を拒否するケース など

“実施する組織から企画する組織へ”

- (1) 地区社協は地域のなかで支えあう“仕組み”をつくる
 >> 企画・コーディネート
- (2) 地区社協とさまざまな団体が連携する
 >> ネットワーク
- (3) 運営委員以外のボランティアを確保することが大切
 >> 担い手づくり、確保
- (4) 自主活動から支援活動への転換
 >> 団体の育成・支援

5 地区社協の活動

“ふれあいサロン”

柏市内160か所以上で開催されています。身近なスペースを拠点として、参加者とボランティアが一緒におしゃべりや体操、レクなどの活動を定期的で開催しています。

生きがい推進、社会参加、閉じこもり防止等の活動です。



“子育てサロン”

子育て家庭が自由に集い、子育ての相談や情報交換、また色々な活動を通して子育てを楽しみ、仲間づくりを行うふれあいの場です。悩みを抱えたお母さんたちも、子育ての活力を取り戻す場所です。



“生活支援活動”

日常生活でのゴミ出しや買物の付き添いなど、高齢者や障がい者等のちょっとした困りごとに対して、助けあいの活動を行います。

今後、更なる拡充が期待されており、支えあい活動の中でも、最も重要で必要不可欠な取り組みとなっています。



“多世代・世代間交流活動”

高齢者の健康づくりや生きがいづくり、子育て中の若い世代のサポート、地域住民の活動支援や福祉教育など、地域の中で高齢者から子どもまで「世代を超えたふれあいの場」となっています。

※ 写真はふれあい給食会



“ふれあい交流活動”

地域住民の交流や福祉意識の醸成などを目的に開催しています。

敬老会や一人暮らし高齢者の交流会などの各種事業を展開しています。



“相談窓口の開設”

気軽に話ができ、必要に応じて地域の見守りや助けあいの仕組みにつなげていくことができる“身近な地域の相談窓口”を開設しています。



“障がい者・団体との交流”

障がいの啓発や交流等を目的に、障がい者団体と地域の協働事業を展開しています。障がいに関するパネル展示も行われ、障がいの有無に関わらず、すべての住民が暮らしやすい地域づくりを目指した取り組みとなっています。



Ⅱ 地区別計画の推進

1 地区別計画とは

住民がその地域の特性や課題、方向性等を話し合い、理想の実現や課題解決に向けた今後の取り組み等を共有し計画化することで、“住民主体による地域性を考慮した活動を効果的に推進すること”を目的としています。

健康福祉活動における計画となるため、地域福祉を推進する中心的組織である“地区社協”を中心に、健康福祉に関するあらゆる分野の方々と協力しながら進めていくものです。計画の期間は平成 26 年から 5 年間となります。

計画期間	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	第 1 期 (H18～H20)			第 2 期 (H21～H25)					第 3 期 (H26～H30)				

2 策定の方法

各地区社協を中心に、第 2 期計画の反省や現状の活動を振り返り、地域の魅力や課題を共有しながら話し合いを行いました。話し合いは、“地区懇談会”を活用し、多くの住民や、専門機関、団体の参加による意見交換により第 3 期計画は策定されました。

〔 地区懇談会の様子 〕



3 計画の活用とあり方

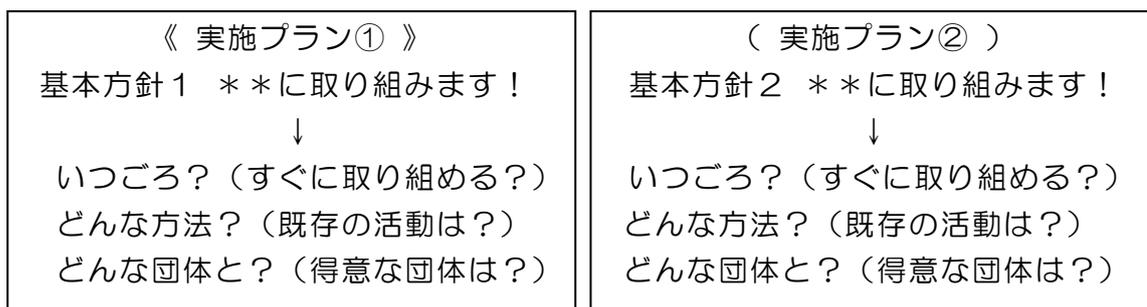
地区別計画は、その“策定”が目的ではなく、計画化した目的等の“達成”が目的となります。そのため、計画が策定された後も常に計画が活用され、毎年度の事業計画やその取り組みに反映されることが大切です。

また、任期等の関係で毎年、構成員が代わる場合は、新たなメンバーと計画内容や目標の方向性を共有し、継続的な活動を行うことが必要です。そして、活動メンバーだけでなく、広く地区住民に対しても目標や取り組みを啓発し、共有することで、地域全体で目標の実現に向けて取り組むことができます。

4 計画の実践に向けて

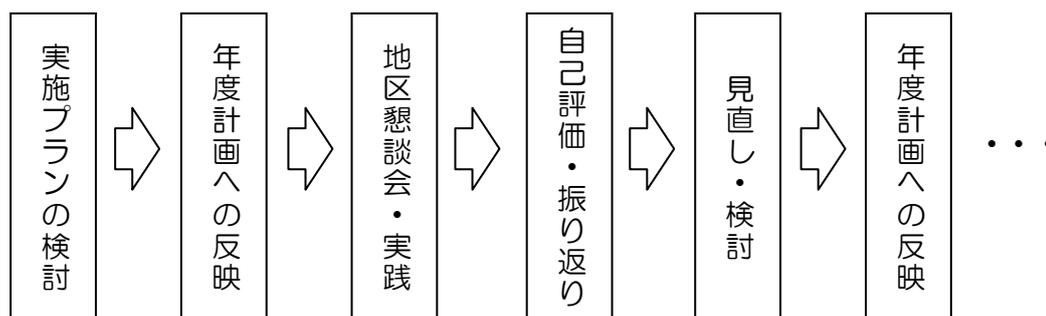
策定された第3期地区別計画を具体的な実践につなげるためには、「いつ頃、どのような方法で、どんな団体と連携して進めていくか？」といった“実施プラン”を決めることが必要です。プランを決めることで、より計画的に取り組みを推進することができます。

≫ 実践にあたって

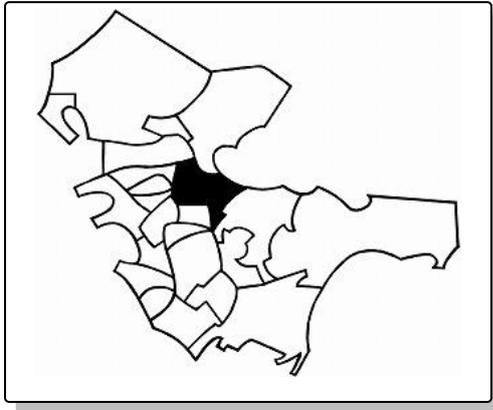


5 計画の進め方と評価

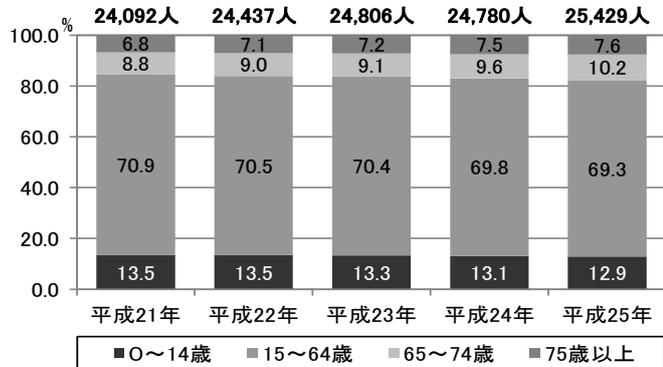
計画の推進は、地区社協活動助成金を活用して取り組みます。また、計画は、当該年度の事業計画書の活動内容が1年を通じてどのような実績があったか等、常に自己評価（成果や課題の振り返り）をしながら進めていきます。



柏中央地区福祉活動計画



■ 柏中央地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

いつまでも住み続けたいと思える笑顔あふれる地域づくり

を目指します！ ■

1 『情報を共有していくため、共に誘いあえるご近所づきあい』に取り組みます！

住民相互に声かけあい、お誘い合うことでコミュニケーションを充実させ、地域行事への参加を促していく。

2 『町会・自治会の枠を越えた、世代間交流の充実』に取り組みます！

既存のふれあい運動会を中心とした世代間交流を行い、地域への関心を醸成していく。

3 『多様な活動を知る機会の充実と多職種からの参画』に取り組みます！

多様な地域活動を知り理解を深めていく。更に多職種（学校関係、福祉施設等）の参加を得て、地域づくりを展開する。

●●● 柏中央地区は、こんな地域です ●●●

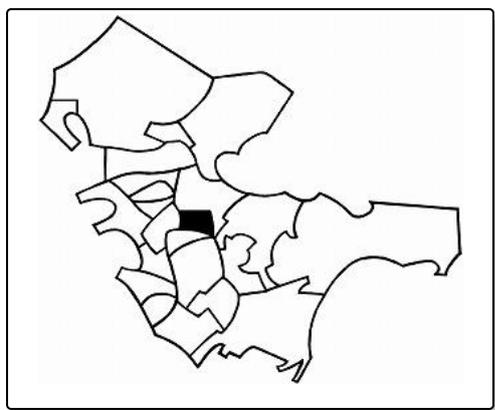
地域の魅力

- ▶ 商業地であり、交通の便が良い
- ▶ 優秀な人材が潜在している
- ▶ ふれあいサロン、交流イベント事業が盛んである

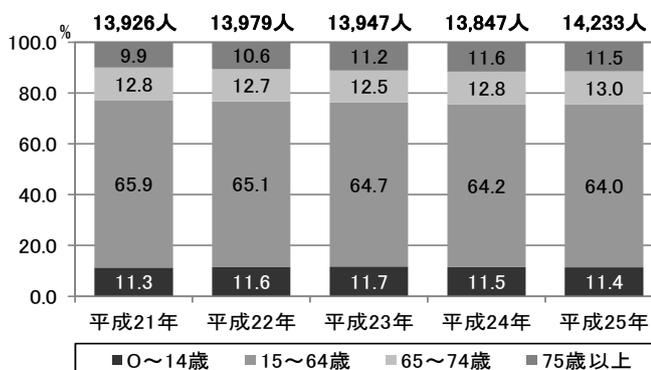
地域の悩み

- ▶ 町会未加入世帯が増加傾向。新築マンションの問題等
- ▶ 担い手・後継者問題
- ▶ 町会における高齢化が深刻

新田原地区福祉活動計画



■新田原地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

年代や境遇の異なる人々が、互いに信頼し合える風土を作り、自然な助け合いが行われること

を 目 指 し ま す ！ ■

1 『人材育成』に取り組みます！

助ける側の人材が、質・量ともに圧倒的に少ない現状を改善したい。

2 『子育て支援』に取り組みます！

子育てサロンをはじめとする、母と子への支援事業は今でも盛況であり、ニーズが高いと感じられる。これを拡充したい。

3 『支えあい・助け合い活動の充実』に取り組みます！

この柱となる事業は「ひまわりの会」である。これは介護支援のサブシステムの性格があり、難しい面が多々あるが、地道に改良を図っていきたい。

●●● 新田原地区は、こんな地域です ●●●

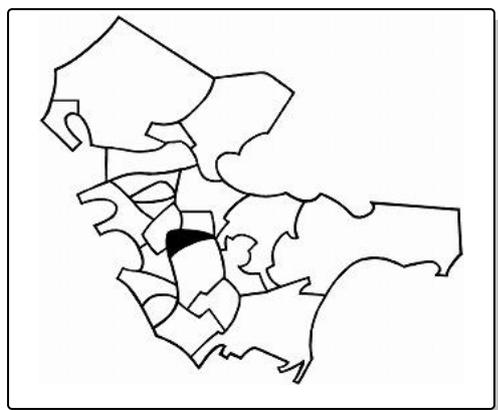
地域の魅力

- ▶ 平穏で住みやすい
- ▶ 自然災害が少ない
- ▶ 公園や緑が多い

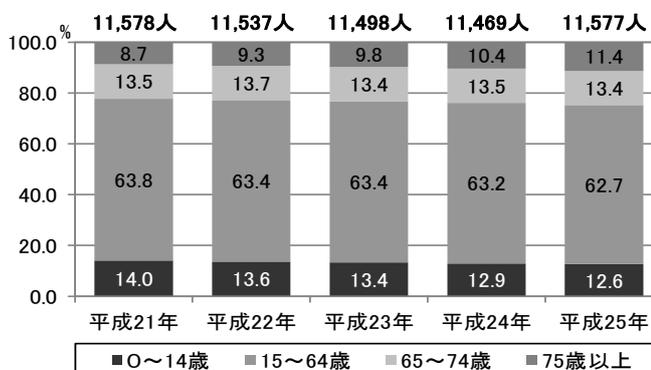
地域の悩み

- ▶ お店が減って買い物が不便
- ▶ 高齢化が進んでいる
- ▶ 空き家が多くなっている

永楽台地区福祉活動計画



■ 永楽台地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

住民が向う3軒両隣で支え合える地域づくり

を目指します！ ■

1 『現事業を継続充実させるため若い世代を含め参加者の増加』に取り組みます！

事業内容を常に精査しマンネリ化を防ぐ。

2 『住民の困り事への対応。ふる協と町会の連携強化』に取り組みます！

困ったとき、お互いさまの助け合い活動の推進。

3 『新規事業の展開と若手ボランティアの育成』に取り組みます！

住民が交流出来る場所を各地に展開。喜ばれる事業を。

●●● 永楽台地区は、こんな地域です ●●●

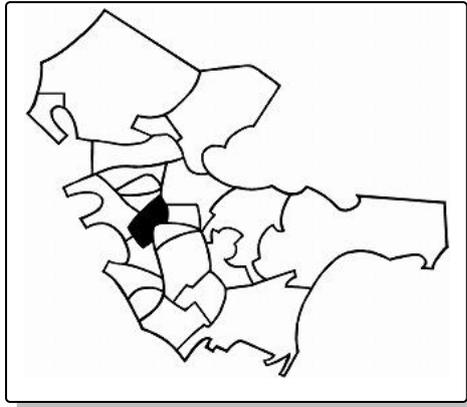
地域の魅力

- ▶ 治安がよく生活環境に恵まれている
- ▶ ご近所同士のつながりがよい
- ▶ 地域行事への理解度が高い

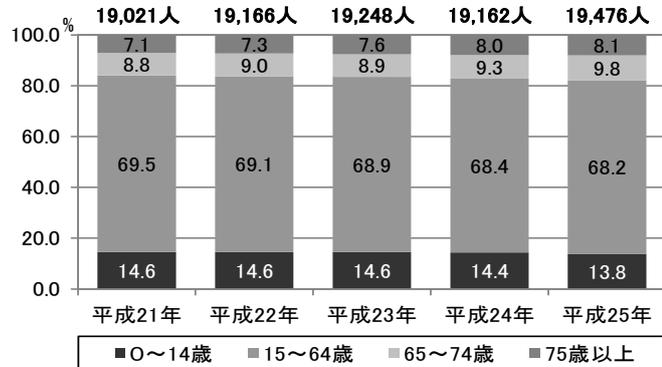
地域の悩み

- ▶ 高齢化が進んでいる
- ▶ 公共施設が古くてせまい
- ▶ 交通の便が悪い。バス路線

富里地区福祉活動計画



■ 富里地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

思いやりと助け合いで住みよい地域づくり

を目指します！ ■

1 『地区社協の活動を通して課題とニーズの把握』に取り組みます！

既存活動は参加者の希望・ニーズに合っているのかを確認し、課題に取り組む一方、生活弱者への手助けの方法、課題を研究していく。

2 『住民が気軽に集える場の充実と支え合いの強化』に取り組みます！

まだまだ引きこもりの高齢者が多いので、引きこもり解消を目指し、孤独者への声掛けと手助けを進めていきたい。

3 『明日を担う人材の確保と育成に努力し、活動の継続』に取り組みます！

活動の更なる充実と継続をしていくためには、人材の確保が重要。各種行事や集会等を通して情報を集め人材の掘り起こしをしていきたい。

●●● 富里地区は、こんな地域です ●●●

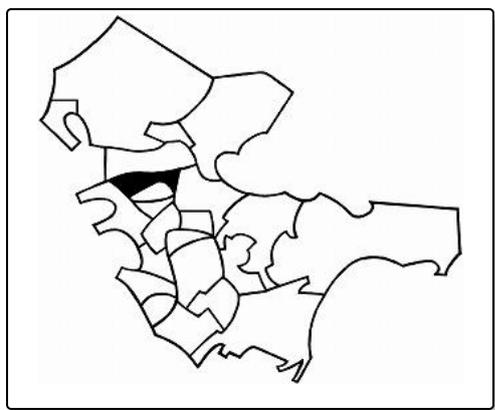
地域の魅力

- ▶ 買い物に便利等生活環境が良い
- ▶ 人口が多く、行事参加者が集まる
- ▶ 地域と小学校の協力が進んでいる

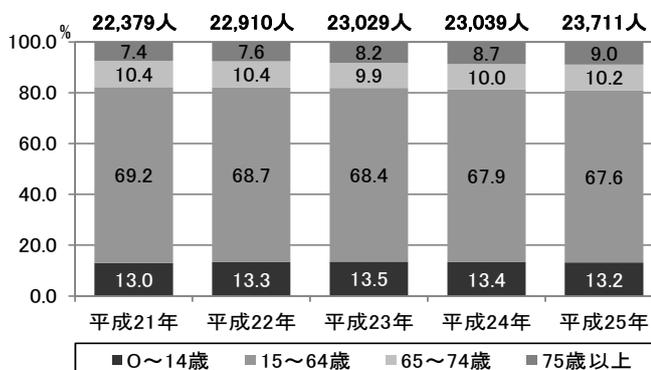
地域の悩み

- ▶ 道路が狭く、高齢者の外出に不便
- ▶ 子どもの減少と高齢化が進んでいる
- ▶ 集合住宅の協力が薄く、コミュニケーションが取りにくい

豊四季台西地区福祉活動計画



■ 豊四季台西地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

誰もが安心して暮らすことの出来る地域

を目指します！ ■

1 『地域で支え合う基盤作り』に取り組みます！

地域の中で、人と人とのつながりが薄くなっている。一方では、高齢者や単身者が増え、支援が必要な方や困りごとに対応するための仕組み作りが緊急の課題であること。

2 『地域で暮らす人々が、地域の中で生きがいを持てる仕組み作り』に取り組みます！

役員や公的ボランティアを引き受ける人が少ない。サロン等でも、次を託せる人材の発掘が大きな課題であること。

3 『当地区社協所属の組織の他、他の組織との連携の強化』に取り組みます！

地域の様々な組織が抱える情報や問題点を共有化することにより、福祉向上のためのニーズを掘り起こすことが、基盤作りや人材発掘の仕組み作りに重要であると考えられること。

●●● 豊四季台西地区は、こんな地域です ●●●

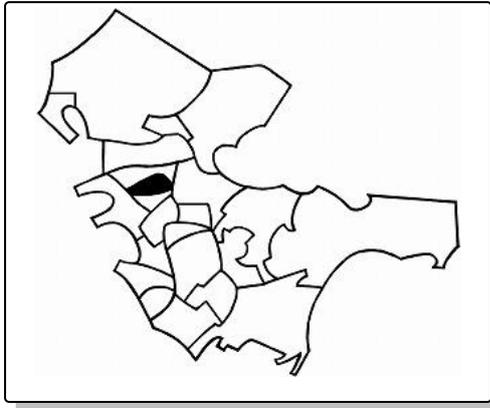
地域の魅力

- ▶ 大堀川周辺の自然、緑が多い
- ▶ 病院が多く、柏駅への便も良い
- ▶ サロン活動が活発

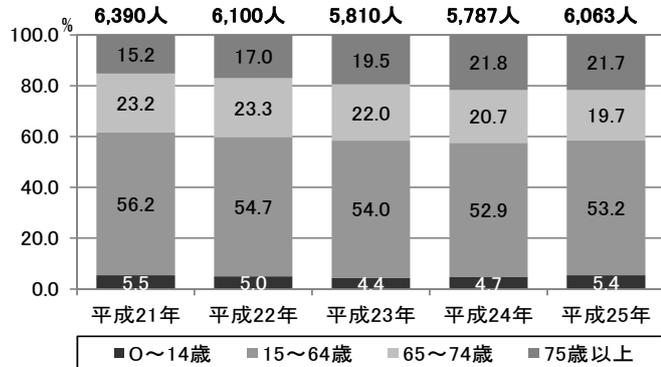
地域の悩み

- ▶ 地域活動に対し無関心な人々
- ▶ 個人情報保護が見守りの障害
- ▶ 治安や防災面での不安

豊四季台地区福祉活動計画



■ 豊四季台地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

人間相互のふれあいを充実させ、明朗で健全な地域

を目指します！ ■

1 『大切な“身近なつながりづくり”』に取り組みます！

「挨拶をしない」「干渉してほしい」という人が増えている中で、この豊四季台では、となり近所等の身近な繋がりや近隣愛を大切にしていきたい。

2 『地域活動に関心を持つ“身近な人材の発掘”』に取り組みます！

「豊四季台に住む隠れた人材」を発掘すること。そして、豊四季台でやりたいことや必要なことを自分たちの手で実現していけるようにしていきたい。

3 『子どもと高齢者の“ふれあいの場づくり”』に取り組みます！

子どもたちの笑顔は、高齢者や地域を明るくします。昔の遊びの伝承やサロンでの交流等を広げ、活気ある豊四季台を再び取り戻したい。

●●● 豊四季台地区は、こんな地域です ●●●

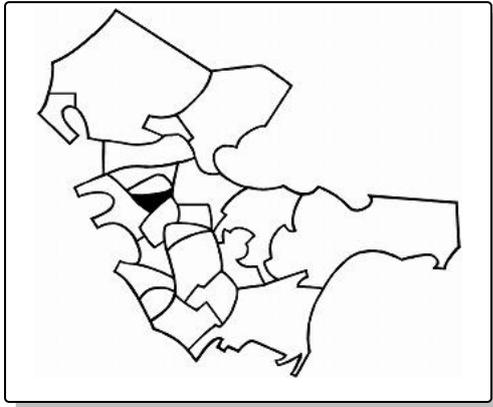
地域の魅力

- ▶ 生活環境が整っている
- ▶ 住民同士の繋がりが強い
- ▶ サロンやふれあい喫茶が充実している

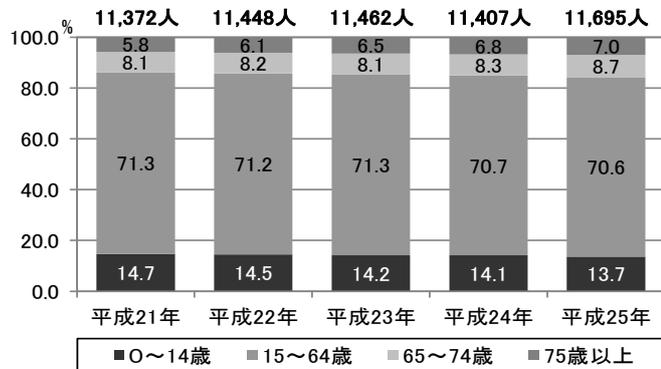
地域の悩み

- ▶ 便利な商店街がどうなるのか不安
- ▶ 若い人が入居しにくいので、若い世代が少なくなっている
- ▶ 今後を考えると、福祉や医療等関係者の駐車場がないのが心配

旭町地区福祉活動計画



■旭町地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

子どもからお年寄りまでみんなが安心・笑顔で支え合えるまちづくり

を目指します！ ■

1 『住民が気軽に集える場所づくり』に取り組みます！

近隣センターだけでなく、身近なところで集まれる場所があると良い。

2 『多世代がつながりを持てる環境づくり』に取り組みます！

支え合い活動を推進するため、普段から挨拶を行うなど子どもからお年寄りまで係ることのできる環境を作ると良い。

3 『災害時など情報共有ができて、助け合える関係づくり』に取り組みます！

災害が起こる前から顔が見える関係を作るなど、お互い助け合える関係を作りたい。

●●● 旭町地区は、こんな地域です ●●●

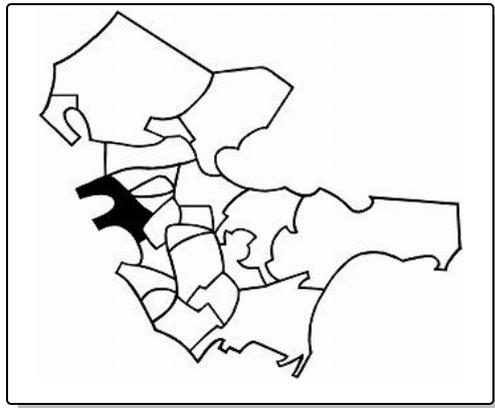
地域の魅力

- ▶ 駅に近く住みやすい
- ▶ 自然災害が無く、自然豊か
- ▶ 元気な高齢者、若い世代が多い

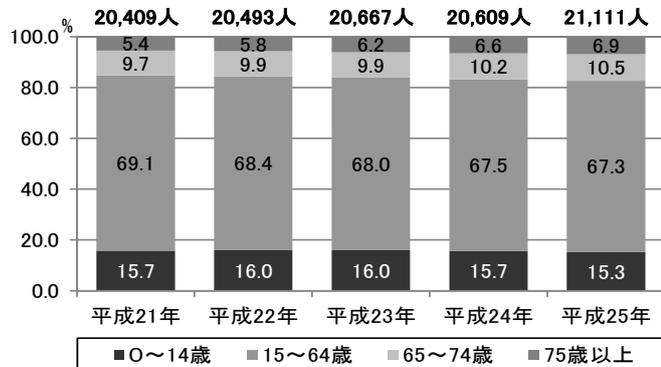
地域の悩み

- ▶ 人間関係が希薄、地域と人とのつながりが無い
- ▶ 活動場所が無い
- ▶ 高齢者が多く、活動者が少ない

新富地区福祉活動計画



■新富地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

世代を問わず人とのつながりが実感できる笑顔あふれる地域

を目指します！ ■

1 『様々な情報の発信と共有』に取り組みます！

住民の役に立つ情報を発信していきたい。
関係機関、団体と横のつながりを持ちたい。

2 『魅力ある活動の立ち上げ』に取り組みます！

魅力的な活動が担い手を集めることに繋がる。
支えあい活動が必要となっている。

3 『リーダー・担い手の育成と確保』に取り組みます！

若い人を育てるという意識を持って活動することが必要。
ボランティア養成講座を定例事業化する。

●●● 新富地区は、こんな地域です ●●●

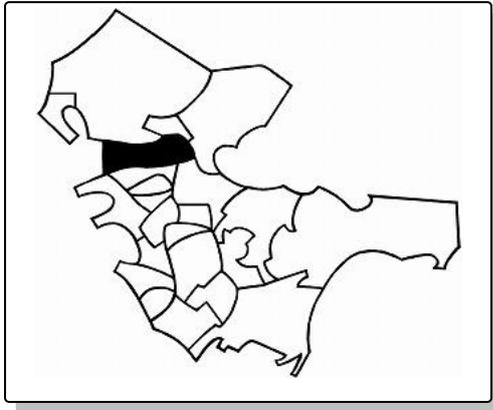
地域の魅力

- ▶ イベントへの参加者は多い
- ▶ 若い世代が増えている
- ▶ 自然災害が少ない

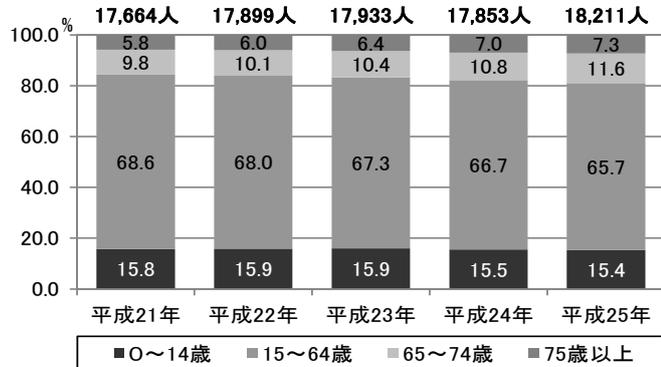
地域の悩み

- ▶ 人間関係が希薄
- ▶ 地理的に南北に長い
- ▶ 交通の便が悪い

高田地区福祉活動計画



■ 高田地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

隣近所から作ろう、福祉の輪

を目指します！ ■

1 『地域内の横のつながり、協力を深めよう』に取り組みます！

各町会の活動は活発であるが、町会同士の横のつながりや連携はまだみだである。有事の際には必ず必要になってくると思われるので、普段から協力体制を整えておく。

2 『学校との連携をさらに強めよう』に取り組みます！

柏4小、5中、柏中央高校、高田ふるさと協議会で福祉教育のパッケージ指定を受けている。地域と連携した福祉教育の推進だけでなく、将来の高田地域を担う子ども達を「地域で育てていこう」という意識で取り組む。

3 『安全安心の地域づくりに努めよう』に取り組みます！

防犯・防災組織が、いざという時にどう機能出来るか普段から話し合いを持つことが大切である。また、普段から近隣のつながりを密にし、日々の助け合いや困った時の助け合いにつながるような関係づくりを進める。

●●● 高田地区は、こんな地域です ●●●

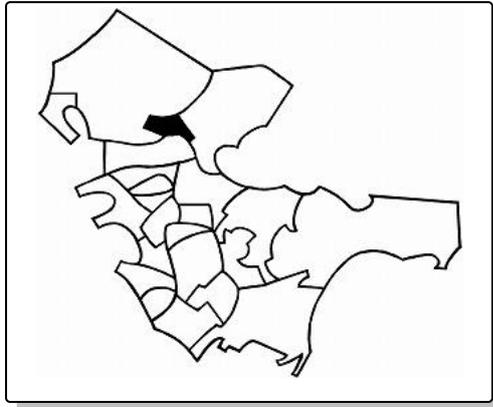
地域の魅力

- ▶ 役員間の意思疎通が良い
- ▶ サロン活動が充実している
- ▶ 大堀川を中心とした自然豊かな環境

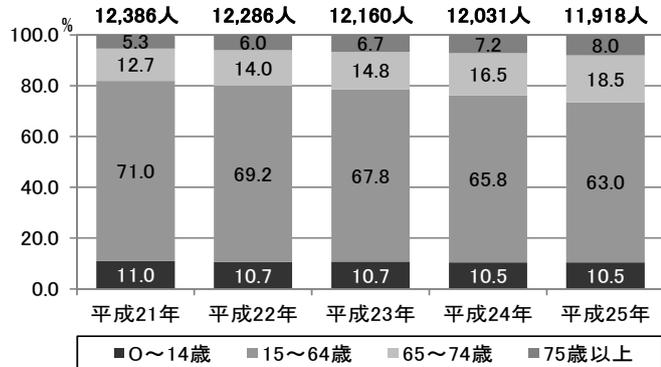
地域の悩み

- ▶ 急速な高齢化
- ▶ 新・旧住民の交流が少ない
- ▶ 役員の成り手不足

松葉地区福祉活動計画



■松葉地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

みんなが主役のまちづくり

を目指します！ ■

1 『助け合い活動の立ち上げ・実践』に取り組みます！

高層階に住む方や高齢者世帯の方など、近隣同士で行える日常生活支援（できないことを手伝う）をふる協や町会が考えていくことが必要。世代を超えて、助け合える体制を作るため。

2 『世代を超えた居場所づくり』に取り組みます！

孤立を防ぐために高齢者や子育て世代などそれぞれが集う場だけでなく、世代を超えて誰もが集える場をつながりをもつことが必要のため。

3 『子ども・子育てからの地域づくり』に取り組みます！

地域と子ども・親が日常的に関わることができるよう、子どもの見守りや集会所等を利用した学び・体験の場を提供し、子ども・子育てを切り口とした地域づくりを進めるため。

●●● 松葉地区は、こんな地域です ●●●

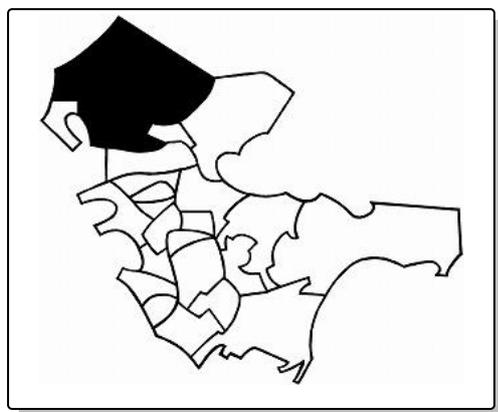
地域の魅力

- ▶ 組織のまとまりがよく、地域行事が活発
- ▶ 病院、学校、商店街など住環境が整っている
- ▶ 人材が豊富で、人との繋がりができている

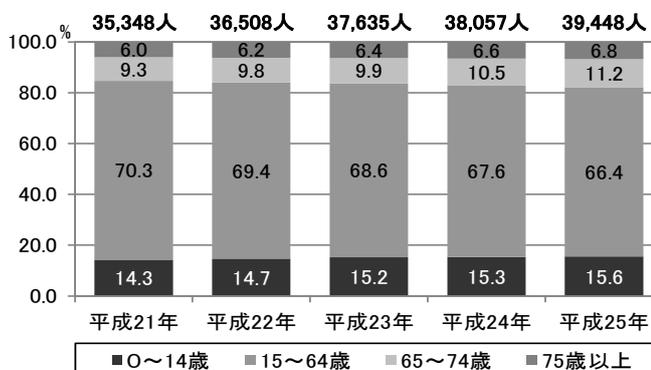
地域の悩み

- ▶ 高齢化し、担い手が固定化している
- ▶ 若い世代と地域の関わりが薄い
- ▶ 日常的な居場所が少ない

田中地区福祉活動計画



■ 田中地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

新旧住民同士が仲良く交流し、子どもからお年寄りまで 助けあって安心して暮らしていける田中地域

を目指します！

1 『町会・自治会をはじめとする各団体、組織との連携を強める活動』に取り組みます！

社協が住民にとって身近な存在になるよう、支えあい活動の中心に社協が位置するよう活動する。

2 『福祉ボランティア活動を支えあう人材の発掘と育成』に取り組みます！

活動の幅、範囲を広げることにより、新しい人材を発掘し活動者の能力を高めていく。

3 『高齢化に伴う多様なニーズにこたえられる活動』に取り組みます！

サロン活動は定着して来たが、サロンに来られない人等、一人一人に寄り添った活動を目指す。

●●● 田中地区は、こんな地域です ●●●

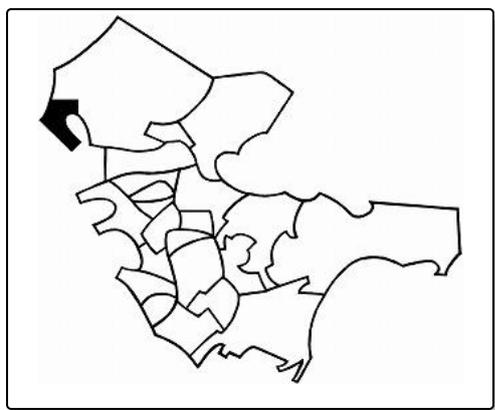
地域の魅力

- ▶ 自然環境がよい
- ▶ 生活環境がよい
- ▶ つながりが強い
(近隣、学校、友人)

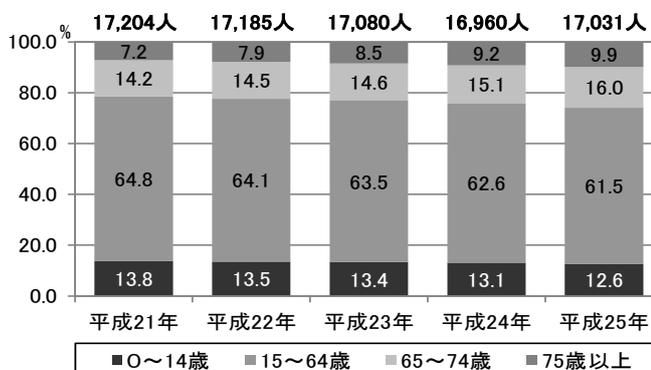
地域の悩み

- ▶ 高齢化の進行
- ▶ 担い手の確保
- ▶ つながりが希薄
(新旧住民、世代間、近隣)

西原地区福祉活動計画



■ 西原地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

互いに支えあい、安心して暮らせる西原

を目指します！ ■

1 『「住民が気軽に集える場」の拡充』に取り組めます！

各学校の空き教室を利用して、様々な年代間でコミュニケーションを深める。

2 『世代を越えた人材の育成』に取り組めます！

元気な高齢者が多いので、支え合い活動に生かし、参加して頂けるよう方策を考えていきたい。

3 『更なる防犯・防災意識を高める』に取り組めます！

防犯・防災意識を高め、隣近所とのコミュニケーションを強化する。

●●● 西原地区は、こんな地域です ●●●

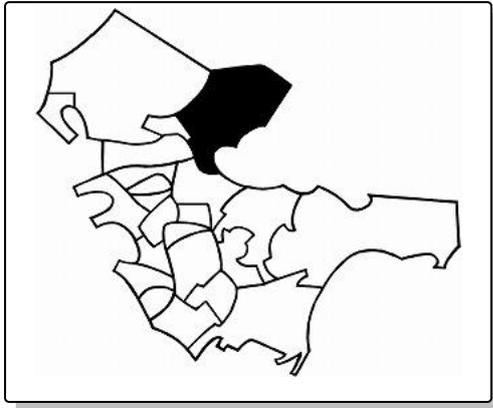
地域の魅力

- ▶ 元気な高齢者が多い
- ▶ 住みやすい環境
- ▶ 交通の便が良い

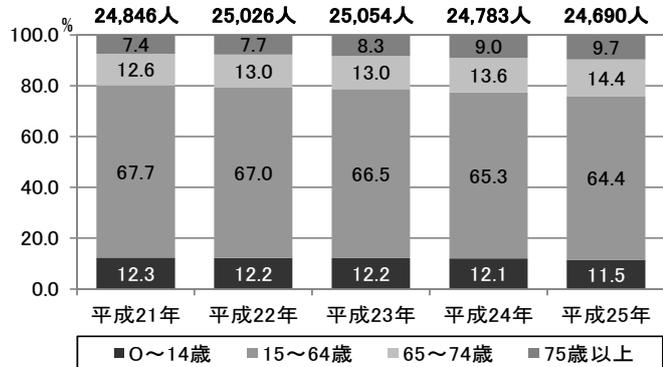
地域の悩み

- ▶ 他市との垣根を越えた交流が少ない
- ▶ 高齢化率が高い
- ▶ 空き家の増加

富勢地区福祉活動計画



■ 富勢地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

お互いが声をかけ合う地域(町)づくり

を目指します！ ■

1 『夫々の組織・団体が手を取り合って活動を進めていくこと』 に取り組みます！

相互に、夫々の弱点をカバーし合いながらの取組みができる。

2 『非常時だけでなく、日常生活の場におけるネットワークづくり』 に取り組みます！

いよいよ目前に迫ってきた超高齢社会への対応。

3 『在宅ケア・医療制度の地域での研究(学習)とその立ち上げ』 に取り組みます！

行政施策に対する理解・協力と共に、行政宛諸要請の具体化。

●●● 富勢地区は、こんな地域です ●●●

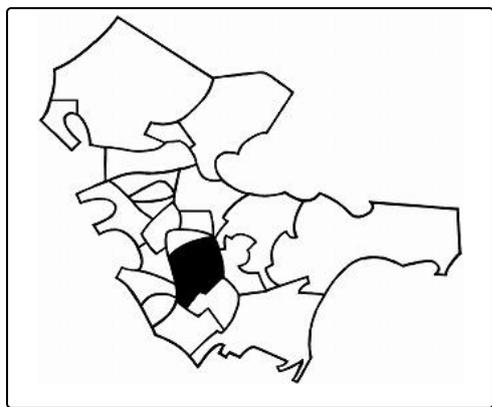
地域の魅力

- ▶ 自然と歴史に恵まれた地域
- ▶ 地域と学校との関係が深い
- ▶ 行事・イベントなどへの参加意識が高い

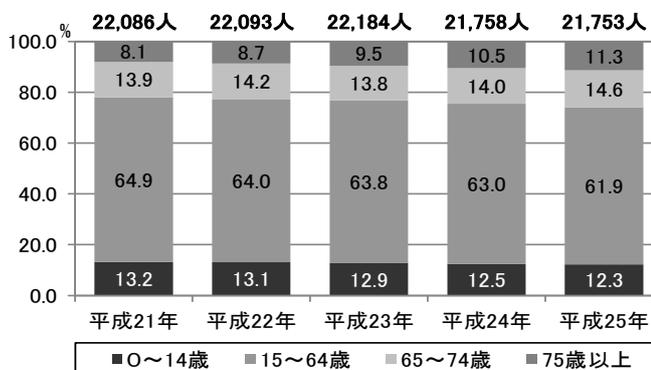
地域の悩み

- ▶ 活動の担い手不足
- ▶ 公共交通機関の不足
- ▶ 高齢化率がーランク高い

土地区福祉活動計画



■土地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

誰もが主役で多世代交流型コミュニティづくり

を目指します！ ■

1 『「人々を繋ぐきっかけ」として地域ぐるみで子育てをするための『組織づくり』』に取り組みます！

「地域の子供を自分の孫のように育てる」ことが、高齢者の生き甲斐になり孤立防止に繋がる。子育て世代も「他人任せ」への反省から地域活動への参加を期待。

2 『「つながり」と「きっかけ」を生かし、地域を支援する『人づくり』』に取り組みます！

児童生徒に対する郷土愛・おもいやりの心の醸成と、高齢者の生きがいセミナーの開催。PTA・青少協・青少年相談員活動等へ協賛による次世代リーダーの発掘。

3 『「子ども」と「大人」も皆が集まる『居場所づくり』』に取り組みます！

高齢者の集う定期開催のサロンはあるものの、小・中学生が学校以外で集える場所は少ない。児童生徒の行動パターンの分析、高齢者と集える場所の確保。

●●● 土地区は、こんな地域です ●●●

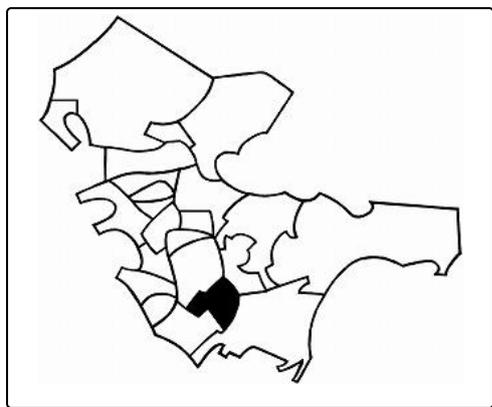
地域の魅力

- ▶ 自然が豊か
- ▶ 生活が便利
- ▶ 老人が多く穏やかな場所

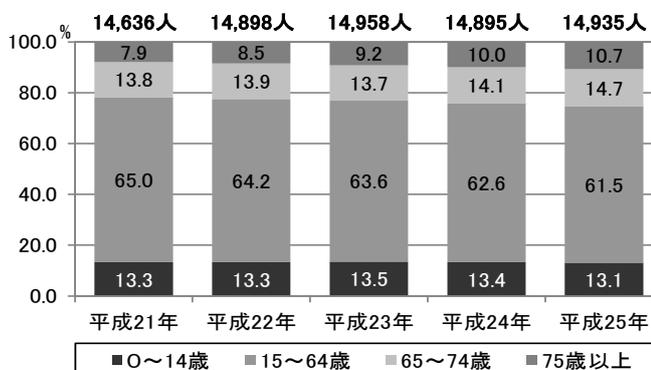
地域の悩み

- ▶ 集会場が少ない（センター遠い）
- ▶ コミュニケーションが少ない
- ▶ 子ども・若者が少ない

藤心地区福祉活動計画



■ 藤心地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

子どもを産み育てたい、いつまでも住み続けたいと思う地域・藤心

を目指します！ ■

1 『住民が気軽に集える場の拡充を図り、近隣の繋がりづくり』に取り組みます！

現在は高齢者が集うサロン等も数多く展開されており、これらの場が気軽に相談できるような場にしていきたい。

2 『日常生活で支援を必要とする人々の支援の強化を図り、支えあい活動づくり』に取り組みます！

高齢化が進んでおり、今後支援を必要とする方々が増えると思われる事から、困り事相談、生活支援（ごみ捨て、草刈り）等の隣組的支援の展開を考えていきたい。

3 『地域組織との交流を進め、あらゆる世代の人材の発掘で人づくり』に取り組みます！

学校、PTA、青少協等に属する人は、やはり世話役的な方が多い事から、これらの方に地域福祉に関わってもらいたいと思う。

●●● 藤心地区は、こんな地域です ●●●

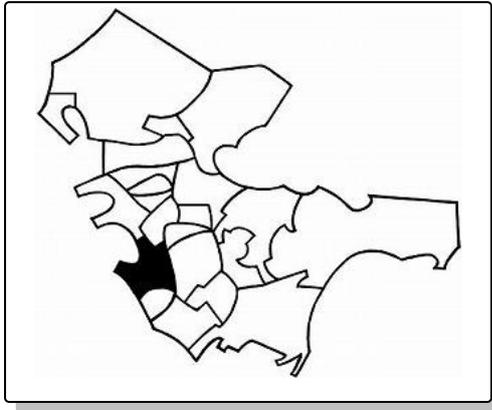
地域の魅力

- ▶ 夏祭り等のイベントが活発
- ▶ 住環境と自然環境が調和
- ▶ 比較的災害が少ない地域

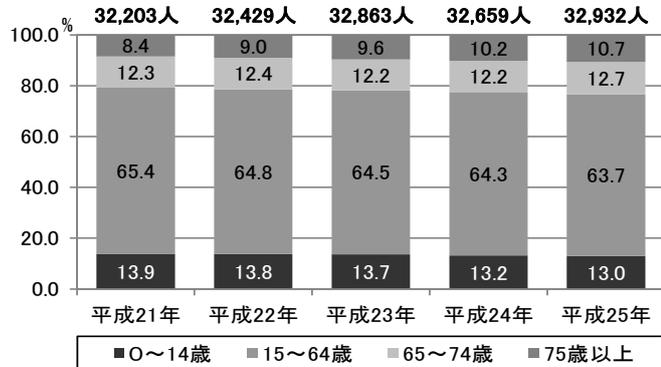
地域の悩み

- ▶ 高齢化が進んできている町会が増えている
- ▶ 老老介護に頼らざるを得なく、支援者が少ない
- ▶ 地域に関心が無い人が多く、地域の連帯意識が希薄

光ヶ丘地区福祉活動計画



■ 光ヶ丘地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

あいさつで 心かよわす まちづくり 光ヶ丘

を目指します！ ■

1 『万一(災害等)にも備えた日常的な交流と見守りの推進』に取り組みます！

孤立防止、災害時の対応、住民同士の交流・信頼関係づくりのため。

2 『地域の交流の場づくりの推進』に取り組みます！

子育て中のママや高齢者等、“つながり”をつくる地域の居場所が必要なため（孤立防止）。

3 『地域活動に参画する“きっかけ”を重視した担い手づくり』に取り組みます！

地域活動の担い手（特に若い世代）を育成・確保するために、まずは、多くの地域活動に参加できるような仕組みやきっかけが必要なため。

●●● 光ヶ丘地区は、こんな地域です ●●●

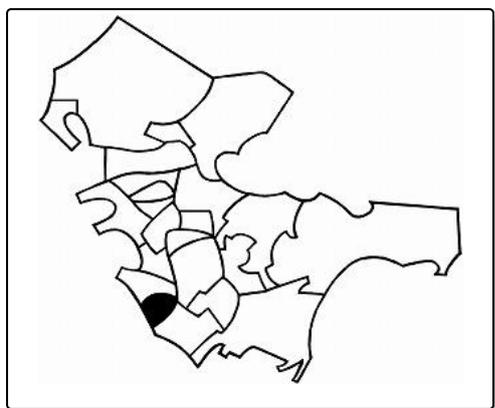
地域の魅力

- ▶ 住環境と交通の便が良い
- ▶ 町会組織がしっかりしている
- ▶ 地域活動に協力的

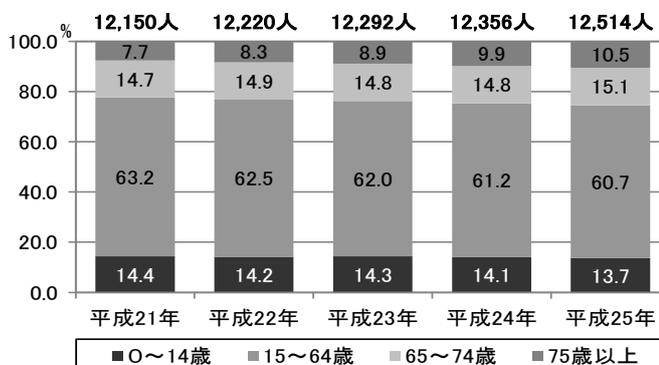
地域の悩み

- ▶ 少子高齢化の進行
- ▶ 地域活動の担い手不足
- ▶ 若い世代の地域参加が少ない

酒井根地区福祉活動計画



■ 酒井根地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

安心、安全な街づくり

を目指します！ ■

1 『地域懇談会を充実させ、各団体と情報を共有すること』 に取り組みます！

地域の充実を図るため。

2 『支えあい活動』 に取り組みます！

高齢者が安心して暮らして行かれるように地域で支えあう。

3 『子供からお年寄りまでのサロン活動等の展開』 に取り組みます！

なお一層の充実を図るため。

●●● 酒井根地区は、こんな地域です ●●●

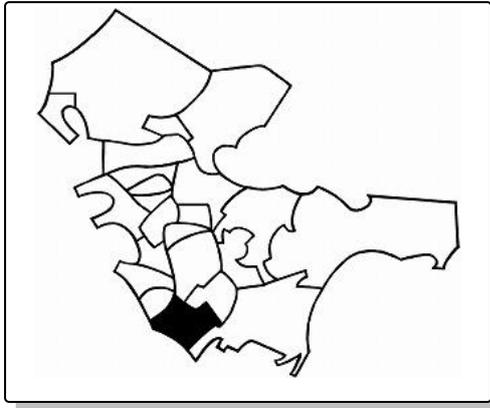
地域の魅力

- ▶ 緑が多い
- ▶ 地域内の連携が強い
- ▶ 音楽の街

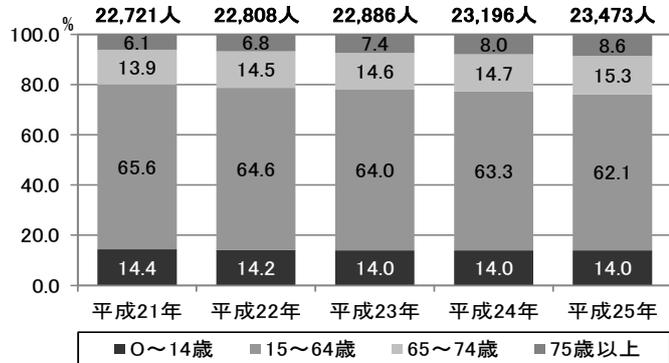
地域の悩み

- ▶ 歩道がせまい
- ▶ 空き家が増えた
- ▶ 役員のなり手がいない

南部地区福祉活動計画



■南部地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

環境の保全と支えあいのある街づくり

を目指します！ ■

1 『明るい地域づくり』に取り組みます！

1. 子供会の充実 各学校に子供会を復活させる。
2. 環境の保全 最近自然破壊が多く残されたわずかな環境の保全に取り組む。

2 『日常生活支援の推進』に取り組みます！

1. 介護家族の交流会と認知症等の予防学習の実施。
2. 高齢者並びに障害者の生活支援についての対策を立ち上げる。

3 『地域の安全を守る活動』に取り組みます！

1. 災害時の地域対策並びに自主防災組織の充実と K-Net の取り組み。
2. 隣近所の日常の付き合いを大切にする。

●●● 南部地区は、こんな地域です ●●●

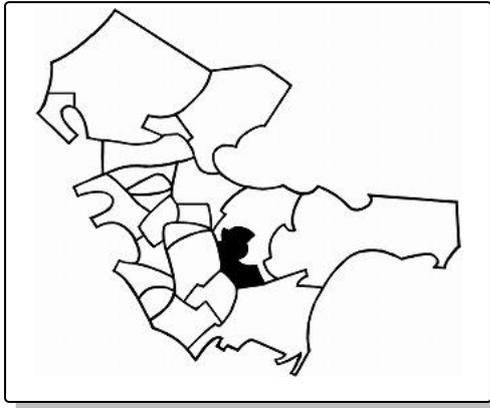
地域の魅力

- ▶ 緑が多い
- ▶ 近所のつながりが活発
- ▶ 町会活動の活発な所が多い

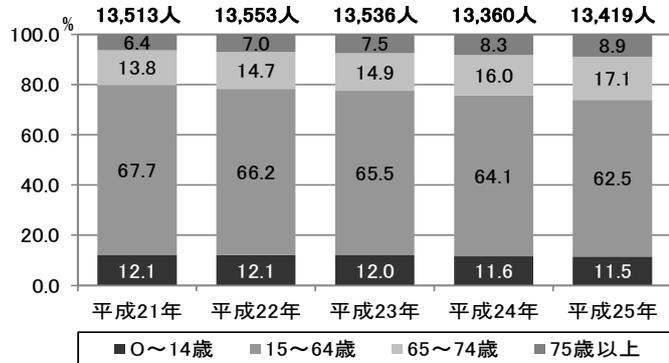
地域の悩み

- ▶ 交通の便が悪い
- ▶ 高齢化の進行
- ▶ 子供の遊び場が少ない

大津ヶ丘・塚崎地区福祉活動計画



■大津ヶ丘・塚崎地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

安心して暮らせる地域づくり

を目指します！ ■

1 『“助けて”と気軽に言える近所づきあい』に取り組みます！

ひとり暮らし・核家族家庭が孤立しないように。

2 『世代を越えて挨拶や声掛けを心がける』に取り組みます！

隣近所の交流を深める。

3 『困りごとが解決できる地域を目指す』に取り組みます！

助け合いの活動を広げる。

●●● 大津ヶ丘・塚崎地区は、こんな地域です ●●●

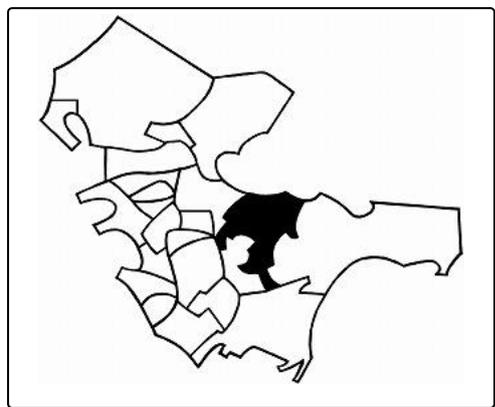
地域の魅力

- ▶ 自然が豊かで環境がよい
- ▶ 子育てに良い環境
- ▶ 顔見知りが多い

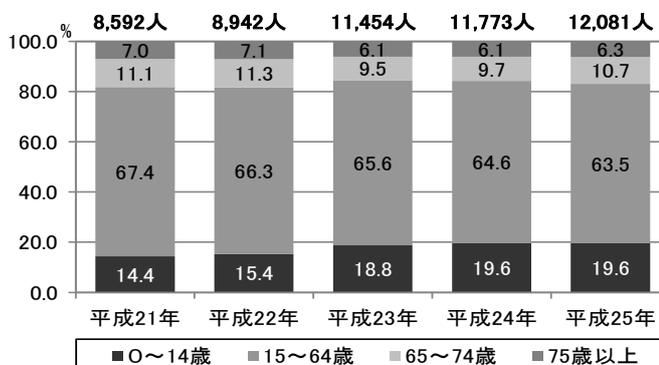
地域の悩み

- ▶ 高齢化が進んでいる
- ▶ 交通の便が悪い
- ▶ 地域活動者の不足

風早北部地区福祉活動計画



■ 風早北部地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

核家族化の進展による各世代の孤立化を防ぐ

を目指します！ ■

1 『見守り体制の充実』に取り組みます！

高齢者の孤立化の防止。

2 『地域の特性を生かして、世代を越えた交流の場づくり』に取り組みます！

世代間の交流をとおして、あいさつできる関係づくりをする。

3 『若い世代と地域同士が情報を共有できるしくみづくり』に取り組みます！

学校、PTA 等と地域活動を企画し、一緒に取り組む。

●●● 風早北部地区は、こんな地域です ●●●

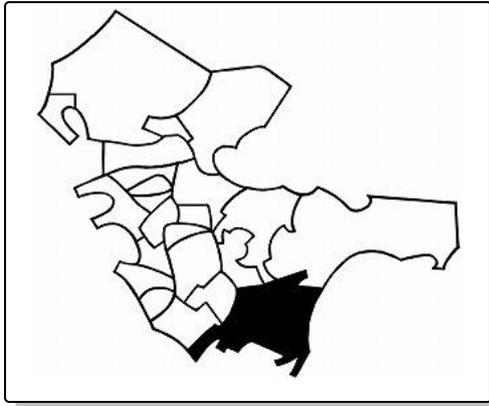
地域の魅力

- ▶ 自然が豊かである
- ▶ 人とのつながりが深い
- ▶ 災害が少ない

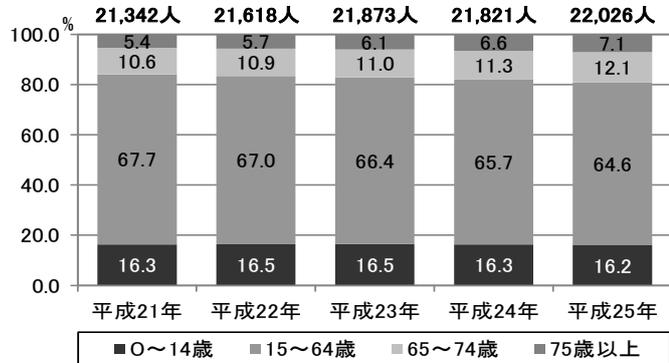
地域の悩み

- ▶ 交通について、高齢者にとっては不便。子どもにとっては、危険な場所が多い
- ▶ 世代間の交流が少ない
- ▶ 高齢化が進んでいる

風早南部地区福祉活動計画



■ 風早南部地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

各世代の人が助け合い、共にいきいき暮らせる地域

を目指します！ ■

1 『孤立化の防止』に取り組みます！

自殺防止・防災組織を考えると近所付き合い、隣組的なつながりが必要。
サロン・ホットコーナー、イベントへの参加の推進。ラジオ体操なども。

2 『後継者育成』に取り組みます！

ボランティアの高齢化やボランティア負担軽減化のため。
定年退職者への声掛けやPTAとの連携。

3 『日常生活の支援』に取り組みます！

高齢化に伴い、通院や買い物などができなくなる人のために、生活支援をする仕組みの創設。

●●● 風早南部地区は、こんな地域です ●●●

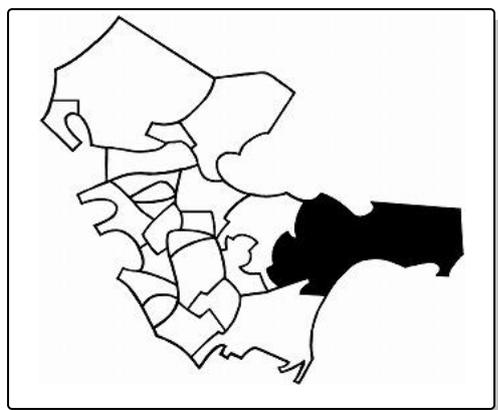
地域の魅力

- ▶ 学校と地域の交流が多い
- ▶ 自然が豊か
- ▶ 新旧住民の交流がある

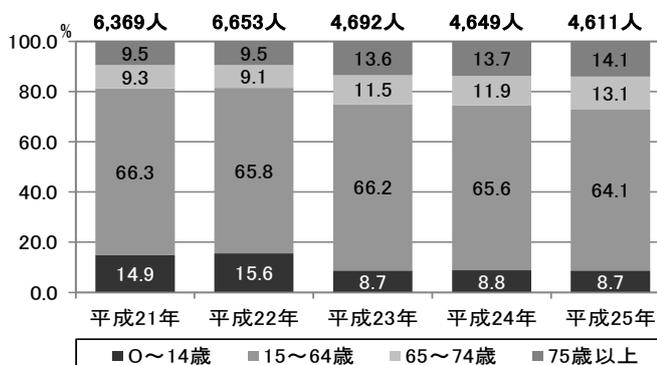
地域の悩み

- ▶ 地区によって交通が不便
- ▶ 高齢化が進んだ地区が多い
- ▶ 区・町会の未加入（回覧が回らない）

手賀地区福祉活動計画



■手賀地区の人口割合



■ 地域福祉向上のため

住み慣れた自然豊かな環境の中で、いきいきと暮らすこと

を目指します！ ■

1 『身体の健康を維持するため、健康診断や介護予防など保健事業の啓発』に取り組めます！

生涯現役の農業従事者は老化のきざしが出ている人が多いので、早期に「介護体操（演歌体操）」や「健やかさんさん教室」で対応する。また、特定健診の受診率の向上にも努める。

2 『心の健康を保つため仲間づくりをしてサロン化を図ること』に取り組めます！

おせっかい焼きやリーダーの発掘を図ってサークルを作り、人と人とのつながりで引きこもりや日々の労働のストレスの発散を図る。

3 『将来を担う子どもたちに集いの機会(遊びの場)を設けて子育ての応援』に取り組めます！

サロン「いないいないばぁ」を建設予定の手賀近隣センターで取り組む。
育児の不安や課題に対してアドバイスや情報提供をして仲間づくりをする。

●●● 手賀地区は、こんな地域です ●●●

地域の魅力

- ▶ 自然が豊か
- ▶ 消費地の近くで農業が出来ること
- ▶ 地区内のほとんどは顔見知りで絆が強い

地域の悩み

- ▶ 少子高齢化
- ▶ 交通が不便
- ▶ 伝統行事が失われつつあること

いつもありがとうメッセージ (^-^)

地区社協の活動をいつも楽しみに参加している人、地区社協の支援を受けて安心して生活している人等、地区社協活動に支えられている人たちから、日頃の活動に対する感謝のメッセージが届いています！

柏中央地区



身近な地域に心温まる場所があることに大変感謝しています。毎回、ボランティア皆さんの楽しい企画、時折私たちの趣味・特技も披露させていただき、やりがいも感じています。顔が見える場があることって、心が安らぎますよね。感謝、感謝、本当にありがとうございます！

(ふれあいサロンのぞみ)

利用者I・Kさんとボランティアの皆さん

新田原地区



夫を亡くし少し落ち込んでいた時、サロンに参加して、同じ体験をされた方がいることを知って、心強く思いました。

このサロンはとてもいいサロンです。ボランティアのみなさんは、どこで会っても声を掛けてくれるので、とても幸せです。ボランティアのみなさん、いつも本当にありがとうございます。

(一声の会) 大内 俊子さん

永楽台地区



発足当初から参加しています。歌が好きで、毎回このサロンで「やまびこの歌」を唄うのを楽しみにしています。

大勢の人と話しをすることでいろいろな情報が得られますし、山本部会長の『時事』にまつわるお話しは大変参考になります。これからも参加させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(サロンやまびこ) 小熊 輝一さん

富里地区



ボランティアの方が多く、面倒見がとてもよいので有り難いです。会場は広くておもちゃがたくさん有り、イベントの後には写真をくださるので良い思い出になります。

内容が良いので私達も含めて常連さんが多いです。最後に子どもと一緒に手遊び歌があり、親子で楽しませてもらっています。

(どんぐりすくすくクラブ)

大滝 康代さん・ゆうまくん
橋本 真由さん・けいとくん

豊四季台西地区



高齢になっても、地域でイキイキと暮らしたい！その思いからサロンをはじめて16年。朝と帰りの表情がすっかり変わり、笑顔で杖を忘れて帰る姿を見て、頑張ってきて良かったといつも感じています。また、地区社協のご理解とご支援があったからこそ今のサロンがあると思います。

ボランティア一同、深く感謝しております。ありがとうございます。

(ゆずり葉の会ボランティア)

木村 富子さん、菊池 春子さん、徳永 シゲ子さん、湯浅 八重子さん、茂木 浦子さん

豊四季台地区



民生委員さんの紹介でこの活動を知りました。足が悪くて布団干しができず、遠方の娘に来てもらっていました。しかし“えがお”の支えあい活動を知ってからは、布団干し等、いつもお願いしています。とても助かっていますので、ぜひ、みんなにも教えてほしいと思います。いつもありがとうございます。これからもお世話になります。

(支えあいの会“えがお”) 岡林 三重子さん

※ 左は、支援をしている“えがお”の松崎さん

旭町地区



ふれあい給食は、学校や子ども達にとって得る物が多いすばらしい事業です。子ども達は、お年寄りと触れ合って親しみを感じると同時に、思いやりの心を学んでいます。今では毎年の事業ですが、立ち上げ時の苦勞、子ども達・お年寄りへの細かな配慮など、皆様の地道な努力の継続には感謝しきれません。

(柏市立旭小学校) 岩田 久美先生

新富地区



かれこれ10年以上も前から利用させてもらっています。

月1回のサロンが本当に待ち遠しくて、友達とおしゃべりして楽しく過ごしています。快く迎えてくれるボランティアさんにはやっぱり「いつもありがとう」のひとつことです。

(新富ゆうゆうサロン) 根本 かつ子さん

高田地区



今回で7回目です。健康づくり推進員の訪問で教えてもらいました。初めての子育てでとても不安でしたがスタッフの皆さんが笑顔で迎えてくれ、優しく話を聞いてくれて、心がホッとしました。

また、たくさんの親子に出会い、いろいろな子育てがあっていいんだとちょっとゆとりを持てるようになりました。お友達もでき、スキダマリンクに行くのが毎月とっても楽しみです。

(高田子育てサロン スキダマリンク)

松崎 裕美(ゆみ)さん、心結(みゆ)ちゃん

松葉地区



民生委員に声をかけて頂き、昨年の夏から参加させて頂いています。工夫を凝らした企画に驚くことばかりで、毎回楽しませてもらっています。手順や内容など細かいところまで気を遣って頂き、嬉しく思います。

身近な場所で行われているサロンは、私にとって無くてはならない存在になっていくでしょう。

(おしゃべりサロン) 永島 愈美子さん

田中地区



月に2~3回遊びに来ています。“すくすく”は他のお子さんやお母さんたちと交流ができ、オモチャもたくさんあるため、とても楽しみにしています。いつも暖かく見守っていただいているボランティアさん！ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

(すくすくたなかっ子広場) 岡本さん親子

西原地区



引っ越ししてきたばかりで、地域の方と交流がない時思い切って参加しました。今では地域のお父さんお母さん達がたくさんいて、参加者の親子さんたちとも知り合うことができました。

いつも暖かく見守っていただきありがとうございます。大変感謝しています。これからもよろしくをお願いします。

(のびのびルーム)

和田 香代子さん親子・裕香ちゃん・龍虎くん

富勢地区



いつもブラッと来ては気軽に利用させてもらっています。行事は趣向が凝らされていて、夫婦ともども、とても楽しい時間を過ごさせてもらっています。ボランティアの皆さんは、いつも気配り、目配りが素晴らしく、いつでも暖かく出迎えてくれるので、とっても安心します。

(サロンー休) 参加者の皆さま

土 地区



スタッフの方々が毎回工夫を凝らして開催してくれるので、この会に来るのがとても楽しみです。

以前病気で入院し、今一番行きたいところを聞かれた時、真っ先に思い浮かんだのがうらら会でした。私にとって、うらら会はもうひとつの家族のような存在です。いつもありがとうございます。

(うらら会) 田代 善一さん

藤心地区



我々高齢者にとって、人々との出会いは、生きがいへの道標として、大切だと痛感しています。

わが“ゆたんぼの会”は、心あるスタッフの方々が献身的にあたたかくお世話して下さるので、常に和気藹々として、とても居心地良く実に楽しい！いつも頭の下がる思いをしています。

誠に有難く、まさに感謝感謝！です。

(ゆたんぼの会) 野木 典子さん(左)

光ヶ丘地区



毎回、楽しく参加させていただいています。
平成 22 年に引っ越してきたので、もう 3 年が経ちます。
ここでは自分の好きな手芸もできるので、近所でこうして皆さんと一緒におしゃべりをしながらゆったりと過ごせるのがとても楽しいです。
(かたくりの会) 澁谷 ミツさん

光ヶ丘地区



毎回、近所の方と一緒に誘い合いながら参加しています。スタッフの方とも顔なじみでお友達とのおしゃべりやふれあいも自然とできるので、とても楽しみにしています。これからもずっと元気に参加していきたいです。
(すみれ会) 佐藤 八重子さん

酒井根地区



友達と世間話をしたりみんなで歌を歌ったり毎回楽しみしています。と編み物が得意の山本さん(写真右)
今日もお手製のカーデガンで参加です。毎回大勢の参加があり本当にありがたいです。今後は親子(母子)にも参加してほしいと思っています。と酒井根町会副会長の川上さん(写真左)
(ふれあいサロン酒井根)
川上さん(左)、山本さん(右)

南部地区



いつもわからない事をていねいに教えてくれてありがとうございます。(かずきくん)
難しい漢字の止める所やはねる所をおしえてくれてありがとうございます。いつもまるつけしてくれて、とてもうれしいです。(そらちゃん)
(ひろば色えんぴつ)
逆井小3年 岩本 かずきくん(右)
逆井小3年 助川 そらちゃん(左)

大津ヶ丘・塚崎地区



昨年、雪の朝ゴミ出しの途中で転倒し両手首を骨折しました。退院後にサロンで聞いていた「おたがいさまの会」のボランティアにゴミ出しをお願いする事が出来ました。ボランティアの方が知った方だったので安心してお願いが出来、今では夕方遅くまで雨戸が開いている時などは閉めて頂くなど安心して生活ができています。

(おたがいさまの会) 栗原さん

風早北部地区



毎回趣向を凝らした内容を企画していただき、とても楽しく参加しています。和気藹々としたとてもいい会で、皆さんとお話するのが楽しみです。今日は休もうかと迷いましたが、皆の顔が思い浮かびやっぱり出てきました。ボランティアさんも親切にしてくださり、とてもありがたいと思っています。

(ふれあいサロンきずな) 猪俣 かつ子さん

風早北部地区



2年ほど前から参加しています。キーホルダーやバッグ等、色々な小物を作るのが好きで、毎回楽しみにしています。皆さん面倒見がよくて、和やかな雰囲気です。集まれる場所が近くにあってよかったなと思っています。月1回ですが、これからもサロンを楽しみに参加していきたいです。

(喫茶箕輪) 高城 八重子さん(左)
大宮 千代子さん(右)

風早南部地区



10年前くらいから参加しています。月に1度のサロンを毎回楽しみにしています。お琴を聞いたり、お芝居を観たりとても楽しいです。全員で歌ったり、脳トレ指体操はボケ防止にもよい。新しい友達もできました。いろいろな事を企画してくれて嬉しいです。スタッフに感謝です。

(ふるさとセンターサロン) 桜井 ミツコさん

手賀地区



月に2回の体操を楽しみに来ています。
先生は優しく面倒見が良いので、とても助かっています。習った体操は、お風呂の中でも温まりながらやっています。ももたろうの童謡や手遊びも思い出せて楽しいです。これからも楽しみに参加していきたいと思っています。いつも本当にありがとうございます。

(鷺野谷医王寺体操クラブ) 染谷 富美枝さん、今津 君枝さん、染谷 照子さん、
小川 きちさん、松丸 モトさん、八木 直子先生

ご協力いただいた皆さま ありがとうございました！

資料

計画の策定について

1 計画の主な策定経過について

(1) 第3期柏市地域健康福祉計画（行政計画）との連携

第3期柏市地域健康福祉計画（行政計画）との連携を図り、共通の方向性をもって計画の策定及び推進を図るため、それぞれの調査結果や策定過程等を共有し、連携をもって計画の策定を図りました。

(2) 第3期柏市地域健康福祉活動計画策定委員会の設置

広く関係者の声を反映する提言の場として、第3期柏市地域健康福祉活動計画策定委員会を設置し、全7回にわたり意見を伺いました。

回数	日程	主な検討内容
第1回	平成25年 1月29日	策定委員長/副委員長の選出 趣旨説明、総論の検討 など
第2回	2月27日 28日	策定委員を2グループに分けての協議 総論の検討、調査結果報告など
第3回	6月13日	調査報告、総論の検討（取り組みの柱等）など
第4回	9月20日	地区社協全体懇談会報告、総論の検討（取り組みの柱と内容等）など
第5回	12月19日 20日	策定委員を2グループに分けての協議 市社協の取り組み（アクションプラン等）など
第6回	平成26年 2月25日	計画全体について
第7回	3月14日	計画全体について（最終案）

(3) 懇談会

今後の地区社協活動の方向性等の意見交換を行い、第3期活動計画に位置づけることを目的に地区社会福祉協議会全体懇談会を開催しました。

日程	主な検討内容
平成25年 7月26日 30日	22地区を2グループに分けて開催（共通の内容） 第3期活動計画説明、グループ懇談と発表「地区社協の これからの役割と重点的な取り組み」

(4) アンケート調査

町会・自治会単位で感じる地域課題や取り組みを把握し、計画に反映させるため、286の町会・自治会・区・管理組合を対象に郵送法による調査を平成25年1月に実施しました。（回収率：72.2%）

2 第3期柏市地域健康福祉活動計画策定委員名簿

役職	氏名	所属団体での役職等
委員長	木村 清一	学識経験者／東京大学高齢社会総合研究機構 学術支援専門職員
副委員長	鈴木 五郎	学識経験者／元全国社会福祉協議会事務局長 前国際医療福祉大学医療福祉学部長
委員	大谷 安弘	風早南部地区社会福祉協議会会長
	藤田 武志	松葉町地域ふるさと協議会相談役
	森 雄三	柏市ボランティア連絡協議会会長
	吉田 勝彦	柏市ふるさと協議会連合会会長
	山名 恵子	柏市民生委員児童委員協議会会長
	間 渕 礼子	柏市民健康づくり推進員連絡協議会 永楽台地域 ブロック長
	朝倉 義子	柏市介護支援専門員協議会副会長
	長谷川 秀夫	公益社団法人 成年後見センター・リーガルサポート 千葉県支部支部長
	堀田 きみ	柏市非営利団体連絡会代表
	西脇 理知子	柏市心身障害者福祉連絡協議会事務局
	大久保 夏樹	社会福祉法人ワナーホームたんぽぽセンター 施設長
	西藤 尚子	赤ちゃんのほっぺ代表
	永田 悦子	特定非営利活動法人 NPO支援センターちば 事務局長
	金本 武志	公益社団法人 柏青年会議所理事長
大島 安輝子	特定非営利活動法人エアロームかしわ 理事・事務局長	

任期：平成25年1月29日から26年3月31日まで

“私たちの” 支えあいプラン
～ 第3期 柏市地域健康福祉活動計画 ～

発行日 平成26年（2014年）3月
発行 社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
〒277-0005 千葉県柏市柏五丁目1-1番8号
TEL 04-7163-9000 FAX 04-7163-9300

